

講義要綱



- 講義要綱には、絶版もしくは品切れとなった参考書も記載してあります。これは、「その参考書が学習上有益である。」と担当者が判断したものです。可能な範囲で図書館などで捜して学習することをお勧めします。
- 講義要綱記載の指定テキストは、変更になる場合があります。『ニューズレター慶應通信』8月号に同封の「テキスト・参考文献購入の手引」の配布を受けてから購入してください。
- 開講科目の中には、授業時間外にパソコンの使用を想定しているものがあります。その場合は、担当教員より授業時に指示があります。

1 総合教育科目

3分野科目／人文科学分野

科目 哲学

2単位

担当 講師 源河 亨 / 講師 村井忠康

この講義では、行為をめぐる哲学的問題を紹介し、それらについての検討を行います。村井が担当する前半（第2回から第6回）では、行為を出来事としてみるか、過程としてみるかという一般的な観点の対立を背景として、行為論における意図や自己知、説明の扱いについて考察します。源河が担当する後半（第7回から第11回）では、行為の特殊例として、演奏・ダンス・演劇といった芸術的パフォーマンスを取り上げ、それらに関わる哲学的問題を考察します。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 出来事としての行為
- 〔第3回〕 過程としての行為
- 〔第4回〕 意図の存在論的身分
- 〔第5回〕 行為における自己知
- 〔第6回〕 因果的説明と目的論的説明
- 〔第7回〕 芸術的パフォーマンス
- 〔第8回〕 パフォーマンスの間
- 〔第9回〕 即興性
- 〔第10回〕 感情の表現
- 〔第11回〕 鑑賞
- 〔第12回〕 試験と総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布します。

◆参考文献

- ・参考文献については講義内で紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

哲学に関する予備知識は特に必要ありません。

◆成績評価方法

最終日の試験結果により成績を評価します。

科目 論理学

2単位

担当 講師 杉本雄太郎

〔概要・目的〕

この講義では思考、推論や論証が「正しい」とは一体どういうことなのか、また論理的に「正しく推論する」こと、すなわち「仮説や前提から、正しい方法で結論に到達する」ことについて、論理学の立場から解説します。そのために、論理学の基本体系の一つである「命題論理」について取り上げ、主に意味論と証明論という二つの側面から検討します。

〔目標〕

上記の意味論・証明論という論理学の二つの側面について、真理表による真理値分析および自然演繹体系を用いた証明という二つの方法を使って、推論の正しさを判定できるようになることが目標です。

〔講義形態〕

基本的には講義形式で行ないますが、実際に練習問題を自分の手で解いていくことにより、上記の二つの方法（真理値分析・自然演繹）を習得して頂きます。

- 〔第1回〕 導入—推論とは？論理学とは？
- 〔第2回〕 日本語文の形式化と形式言語
- 〔第3回〕 命題論理の意味論Ⅰ—真理表・真理値分析
- 〔第4回〕 命題論理の意味論Ⅱ—同値変形／真理値分析による推論の妥当性の判定
- 〔第5回〕 命題論理の意味論Ⅲ—恒真・矛盾・整合／真理値分析に基づく矛盾と整合性の判定
- 〔第6回〕 命題論理の意味論Ⅳ—トートロジー、推論

- の妥当性、命題のあつまりの整合性・矛盾という概念の間の関係／中間テスト
- 〔第7回〕命題論理の証明論Ⅰ－推論の形式化 / 導入規則と除去規則
- 〔第8回〕命題論理の証明論Ⅱ－自然演繹の推論規則: 連言・否定
- 〔第9回〕命題論理の証明論Ⅲ－自然演繹の推論規則: 条件法・選言
- 〔第10回〕命題論理の証明論Ⅳ－自然演繹の推論規則: 矛盾・背理法
- 〔第11回〕命題論理の証明論Ⅴ－最小・直観主義・古典論理 / 自然演繹による矛盾の導出
- 〔第12回〕総括－意味論と証明論の関係および試験
- ◆テキスト
- ・プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
- 特別な知識は特に仮定いたしません。
- ◆成績評価方法
- 講義中に行なう中間テスト、講義最終回に行なう試験の成績、および平常点を総合的に判断して評価いたします。

科目 倫理学

2単位

担当 講師 吉田修馬

「倫理」とは、もともとは、人間がよく生きる上で大切にすべき物事のことであり、人間が社会の中で守るべきルールのことです。

倫理には、大ざっぱに言うと、「人間の理想の生き方」、「社会で守るべきルール」、「善悪や正不正の判断基準」という三つの意味があります。

「倫理学」とは、そのような倫理について論じる哲学の一分野です。「哲学」とは、物事を根本的・原理的に考える学問です。つまり、人間の生き方、社会のあり方、善悪や正不正の判断基準について、つきつめて考えるのが倫理学です。

本講義では、西洋倫理学史における代表的な思想家を取り上げながら、倫理学的な問いを論じていきます。

- 〔第1回〕イントロダクション
- 〔第2回〕プラトンとアリストテレス
- 〔第3回〕デカルトとホッブズ
- 〔第4回〕ヒュームとスミス
- 〔第5回〕モンテスキューとルソー
- 〔第6回〕カントとヘーゲル
- 〔第7回〕ミルとベルクソン
- 〔第8回〕マルクスとニーチェ
- 〔第9回〕サルトルとフーコー
- 〔第10回〕ウェーバーとハーバーマス
- 〔第11回〕ロールズとセン
- 〔第12回〕総括

◆テキスト

- ・柘植尚則『入門・倫理学の歴史』(梓出版社、2016年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

倫理学に関心があるかたを歓迎します。予備知識は必要ありません。ただし、答えが簡単に見つからない問題について、「考え方や価値観は人それぞれだ」で終わるのではなく、粘り強く柔軟に考えることを厭わ

ないかたを期待します。

◆成績評価方法

最終日の試験に、出席状況を加味して評価します。

科目 芸術（美術）

2単位

担当 講師 林 克彦

15世紀のルネサンス期から19世紀のポスト印象派の時代にかけての西洋近世絵画の最大の特徴は、数学的な透視画法（パースペクティブ）と光の現象の客観的な観察に基づく三次元的な写実であり、その意味においてこの時代の絵画は、現実の模倣を前提とした叙事の芸術といえるでしょう。しかし、このような絵画形式は決して普遍的なものではなく、現に近世以外の時代に制作された西洋絵画の多くは本質的に、主観的な構成に基づく二次元的な装飾性の上に成り立っています。つまり、中世以降の西洋絵画史において15世紀と19世紀とに二度の大きな変革が起こったわけですが、これら二つの変革に少なからぬ影響を与えたのが、イタリア初期ルネサンスの画家であり、数学者でもあったピエロ・デッラ・フランチェスカ（1412年頃～1492年）です。本講義では、このピエロ・デッラ・フランチェスカの諸作品の分析を通じて、西洋近世絵画の様式の変遷を決定付けたルネサンス絵画の主要な造形原理について解説します。

- 〔第1回〕講義全体の概略。美術史学における様式論。
- 〔第2回〕西洋近世絵画における空間表現の変遷。
- 〔第3回〕ルネサンス美術における写実と理想化。
- 〔第4回〕15世紀のフィレンツェ絵画。
- 〔第5回〕ピエロ・デッラ・フランチェスカと透視画法。
- 〔第6回〕壁画連作における空間表現と構成。
- 〔第7回〕ピエロ・デッラ・フランチェスカ作《聖十字架伝》。
- 〔第8回〕ルネサンス絵画における風景。
- 〔第9回〕ピエロ・デッラ・フランチェスカと北方絵画。
- 〔第10回〕ピエロ・デッラ・フランチェスカとヴェネツィア絵画。
- 〔第11回〕ピエロ・デッラ・フランチェスカと近代絵画。
- 〔第12回〕総括。

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・レオン・バッティスタ・アルベルティ『絵画論』（三輪福松訳、中央公論美術出版、2011年）
- ・ヴァザーリ研究会編『ヴァザーリの芸術論』（平凡社、1980年）
- ・ハインリヒ・ヴェルフリン『美術史の基礎概念』海津忠雄訳（慶應義塾大学出版会、2000年）
- ・ロベルト・ロンギ『イタリア絵画史』和田忠彦他訳（筑摩書房、1997年）
- ・ケネス・クラーク『風景画論』佐々木英也訳（ちくま学芸文庫、2007年）
- ・石鍋真澄『ピエロ・デッラ・フランチェスカ』（平凡社、2005年）

◆ 成績評価方法

出席状況と最終日の試験で評価します。

科目 歴史（東洋史）

2単位

担当 文学部教授 桐本東太

〔講義題目〕中国神話学入門

〔講義概要〕中国は神話無き国と呼ばれ、長らく中国神話の研究は低調であった。ところが最近では、一般民衆の間で大量の神話が伝承されていることが確認されるなど、中国神話の研究は新たな画期を迎えている。そこでこの授業では中国神話に関する最近のトピックを選んでそれに関する講義を行うことにより、受講者の皆さんに、中国神話のアウトラインを理解してもらうことを目的とする。講義の内容はおおむね以下のとおりである。

〔第1回〕〔第2回〕 中国の地域性と神話

〔第3回〕〔第4回〕 笑わぬ女神

〔第5回〕〔第6回〕 捨て子伝承の系譜

〔第7回〕〔第8回〕 オリент神話との比較

〔第9回〕 独脚鬼の伝承

〔第10回〕 魚の島

〔第11回〕 嫁殺し田

〔第12回〕 嫁殺し田および試験・総括

◆ テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆ 参考文献

- ・授業中に適宜指示する。

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

熱心な学生の受講を希望する。

◆ 成績評価方法

最終日の試験による。

科目 近代思想史

2単位

担当 講師 篠原洋治

近代社会を、国家によって管理された市場経済に基づく市民社会と捉えることにはさほど異論はないだろう。多くの留保を必要とするものの、少なくとも先進諸国では、自由で平等な社会が少なからず実現されてきた。しかし他方で近代は、社会秩序維持のために「労働」を管理する権力が著しく発展し、社会の隅々まで浸透してきた時代であり（フーコー）、また、諸個人の「欲望」が、市場システムや科学的言説を媒介にコントロールされている時代である（ドゥルーズとガタ

リ）。この意味で、18世紀以降、諸個人の自由・自立をめざした啓蒙のユートピアは、逆に、自由を抑圧するある種のデストピアに陥っているといえないだろうか。本講義では「労働」と「欲望」の概念の再検討を通して、近代という時代の特殊性を浮き彫りにすると同時に、その諸問題の淵源を考察していきたい。

〔第1回〕 アレントによる労働、仕事、行為の分類

〔第2回〕 トマス・モアの『ユートピア』における労働

〔第3回〕 宗教改革における労働観の転換（ヴェーバー）

〔第4回〕 経済学の生誕と労働の格上げ（ロック、スミス）

〔第5回〕 啓蒙と労働の新しい意味付け（ヘーゲル）

〔第6回〕 労働と規律訓練権力（フーコー）

〔第7回〕 福祉国家と生命権力（フーコー）

〔第8回〕 奢侈批判のユートピア（フェヌロン、ルソー）

〔第9回〕 奢侈肯定と経済学的自由主義（マンデヴィル、ヒューム、スミス）

〔第10回〕 フーリエのユートピアにおける労働と概念の解放

〔第11回〕 資本主義社会における欲望と権力（ドゥルーズとガタリ）

〔第12回〕 試験と総括

◆ テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆ 参考文献

- ・坂本達哉『社会思想の歴史』（名古屋大学出版会、2014年）（市販書採用科目「社会思想史」テキスト）
- ・野地洋行編『近代思想のアンビバレンス』（御茶ノ水書房、1997年）
- ・太田義器、谷澤正嗣編『悪と正義の政治理論』（ナカニシヤ出版、2007年）
- ・マックス・ヴェーバー、大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波書店、1988年）
- ・ハンナ・アレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫、1994年）
- ・ミシェル・フーコー『監獄の誕生』（新潮社、1977年）

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

授業において質問をするなど積極的に参加することを期待する。

◆ 成績評価方法

出席状況、授業での積極性、最終日の試験により総合的に評価する。

3分野科目／社会科学分野

科目 法学（憲法を含む）

2単位

担当 講師 高田久実

現代社会における日々の生活が、「法」の存在を無視して成り立つものでないことは周知の事実であろう。

そのような「法」をめぐる知見を深めるため、法律学を学ぶ基盤を形成することが本講義の目的である。法律学を理解するうえで基本的かつ重要な論点を考察することにより、法的な知識および思考の獲得を目指す。

〔第1回〕 開講にあたって・法律学に関する基礎文献について

- 〔第2回〕 「六法」の利用・法令の構造・難読難解法律用語
 〔第3回〕 法令用語をめぐって・法律格言
 〔第4回〕 法規範および法存在の根拠をめぐる学説
 〔第5回〕 法源（法の存在形式）—成文法と不文法
 〔第6回〕 わが国における成文法
 〔第7回〕 わが国における不文法
 〔第8回〕 法の種類①
 〔第9回〕 法の種類②
 〔第10回〕 法の効力
 〔第11回〕 法の解釈と適用
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・霞信彦『法学講義ノート〔第6版〕』（慶應義塾大学出版会、2016年）ISBN978-4-7664-2311-2

◆参考文献

- ・霞信彦編『法学概論』（通信テキスト、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講者には積極的に六法を引き、法律に親しんでもらいたい。ただし、「六法」については初回講義においてガイダンスをおこなうので、その後の購入をすすめる。

◆成績評価方法

講義最終日に筆記試験を実施する。出題形式等については、講義中に指示する。

科目 政治学

2単位

担当 講師 慶 済姫

本講義の目的は、政治学の理解のために必要な基礎的な概念を習得することにあります。本講義では、政治学における基礎的な原理、政治構造、政治的作動などを説明する上、講義内容に基づき、現実が生じている政治的現象を解説します。学生が政治学における基本的な概念を理解する上、政治現象の分析能力を得て、望ましい政治の志向点が提示できることを狙います。講義は具体的に、以下のような計画に沿って進めます。なお、以下の講義計画は、事情によって若干の変更がある場合もあります。

- 〔第1回〕 オリエンテーション
 — 政治とは
 — 政治学の主要分野
 — 本講義の構成
 〔第2回〕 政治権力・政治文化・政治社会化
 〔第3回〕 政党・利益団体
 〔第4回〕 選挙・投票行動
 〔第5回〕 政治体制
 〔第6回〕 行政・官僚制
 〔第7回〕 地方政治
 〔第8回〕 国際政治
 〔第9回〕 経済と政治
 〔第10回〕 福祉と政治
 〔第11回〕 ジェンダーと政治
 〔第12回〕 総括
 — 期末試験

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・W. Phillips Shively『Power & Choice: An Introduction to Political Science』（McGrawHill Education、2013）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 経済学

2単位

担当 講師 北條陽子

本講義は、経済学の基礎知識を学ぶための科目です。経済学には大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学とがあり、それぞれの入門的な内容を解説します。

経済学部を受講生には、今後専門的な内容や応用分野を学んでいくために不可欠となる土台作りを、他学部を受講生には、経済学的な考え方に触れて経済学に興味を持って頂くことを目標としています。

- 〔第1回〕 はじめに・市場について
 〔第2回〕 需要と供給
 〔第3回〕 需要の価格弾力性
 〔第4回〕 消費者行動と生産者行動
 〔第5回〕 市場メカニズムの効率性と限界
 〔第6回〕 国民経済計算
 〔第7回〕 物価の変動
 〔第8回〕 マクロ経済における需要と供給
 〔第9回〕 財市場—乗数効果
 〔第10回〕 貨幣市場
 〔第11回〕 財政政策と金融政策
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・伊藤元重『入門経済学〔第4版〕』（日本評論社、2015年）
 ・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ篇〔第3版〕』（東洋経済新報社、2013年）
 ・塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』（新世社、2010年）
 ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門〔第5版〕』（有斐閣、2016年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 社会学

2単位

担当 文学部教授 織田輝哉 / 文学部教授 鹿又伸夫

前半では、社会学の基本的な考え方を習得するために、理論上重要なトピックスとして、予言の自己成就、社会的ジレンマ、逸脱行動論、組織と人間、教育と不平等、社会秩序の形成というテーマを取り上げ、複雑な社会現象をいかに学問的にとらえるかを論じていく。

また後半には、社会学における社会現象のとらえかたを理解することを目標として、著名な社会学者の研究を取りあげ、かれらが社会現象をどのように説明しようとしたかを解説する。具体的には、社会構造が自殺におよぼす影響、マクロな社会変動に対する階級構

造や合理的行為の影響といった視座を取り上げたり、規範と秩序形成の問題を取り上げたりする。

- 〔第1回〕 予言の自己成就
- 〔第2回〕 社会的ジレンマ
- 〔第3回〕 逸脱とラベリング
- 〔第4回〕 組織と人間
- 〔第5回〕 教育と社会的不平等
- 〔第6回〕 つきあい方の戦略と秩序形成
- 〔第7回〕 自殺と社会構造：E. デュルケム
- 〔第8回〕 階級闘争と社会変革：K. マルクス

- 〔第9回〕 社会的行為と社会変動：M. ウェーバー
- 〔第10回〕 社会システム論：T. パーソンズ
- 〔第11回〕 合理的行為と社会秩序：T. パーソンズ
- 〔第12回〕 試験・講評
- 〔その他〕 小テスト

◆テキスト

- ・プリントを配布する。

◆成績評価方法

- 出席および最終日の試験による。

3分野科目／自然科学分野

科目 統計学

2単位

担当 講師 中野 諭

この講義では経済や日常生活における具体的な話題を取り上げながら、それらと関連するデータの読み取り方など統計学の基礎を習得することを目標にしている。

- 〔第1回〕 データの整理
- 〔第2回〕 確率
- 〔第3回〕 確率変数とその分布
- 〔第4回〕 基本的な分布
- 〔第5回〕 標本分布（1）
- 〔第6回〕 標本分布（2）
- 〔第7回〕 母数の推定（1）
- 〔第8回〕 母数の推定（2）
- 〔第9回〕 仮説検定（1）
- 〔第10回〕 仮説検定（2）
- 〔第11回〕 線形関係の推定
- 〔第12回〕 総括
- 〔その他〕 小テスト

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。
- ・森棟公夫『統計学入門 第2版』（新世社、2000年）ISBN978-4-88384-017-5

◆参考文献

- ・早見均・新保一成『基礎からの統計学』（培風館、2012年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

統計学の初学者を対象とするが、短期間で数多くの内容を取り上げるので、統計学（テキスト科目）レポートの既習者が望ましい。また、講義のなかで実際に練習問題を解く時間を設ける予定なので、ルートが計算できる電卓を用意すること。

◆成績評価方法

基本的には最終回の試験で成績評価を行うが、毎回講義の際に解く練習問題も加点対象となる。

科目 自然科学特論

2単位

担当 講師 戸金 大

本講義の目的は生物と生物および生物と環境との関係を学ぶことです。ある地域に棲む全ての生物と、それら生物を取り巻く無機的（非生物的）環境のまとまりを示す概念を生態系といいます。生態系の仕組みを理解し、人間と生物の関わりや生態系保全について、受講生の皆さんと本授業を通して考えていきます。

- 〔第1回〕 はじめに一授業の概要
- 〔第2回〕 生態系と生物多様性その1
- 〔第3回〕 生態系と生物多様性その2
- 〔第4回〕 里山の生態系
- 〔第5回〕 島嶼の野生生物
- 〔第6回〕 人間と生物
- 〔第7回〕 生態系破壊と生物多様性の減少
- 〔第8回〕 外来生物
- 〔第9回〕 生態系の保全（保全生態学とは。野生生物保全の現状）
- 〔第10回〕 野生生物保全その1
- 〔第11回〕 野生生物保全その2
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- 講義中に適宜紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

生物や自然環境に興味があり積極的に授業に参加することを望みます。

◆成績評価方法

出席点と講義内で実施する課題と最終日の試験によって総合的に評価します。

ただし、30%以上欠席した者には単位を付与しません。

科目 英語（リーディング）A

1 単位

担当 講師 赤羽俊昭

様々な英文を音読し和訳してもらいます。さらに短い英文を、和訳を見ながら暗唱してもらいます。

- 〔第1回〕 2016年に新しい形式となったTOEICのReading Sectionの問題に挑戦しましょう。教材は教員がプリントにして当日配布しますが、辞書を使わなくても良いように注釈を付けておきます。予習は不要です。また、【第2回】の授業以降、受講者の皆さん一人一人に暗唱してもらう10語から20語程度の英文を10個と、その和訳を裏表に印刷したプリントを1枚配布します。皆さんの進捗状況に合わせて配布しますが、最終的には4枚配布し、最低でも2回は繰り返して暗唱してもらう予定です。
- 〔第2回〕 授業開始直後、可能であれば授業開始前から、前回配布したプリントの和訳を見ながら、英文の暗唱を一人一人にしてもらいます。それが済みましたら、英語のニュース放送に挑戦してもらいます。教材は最近のCNN 10で放送されたニュースを予定しています。まず映像を見て音声を聞きながら、内容を大まかに把握してもらいます。そのあと、放送された英語原稿に注釈をつけたプリントを配布し、受講者の皆さんを指名して、その場で音読と訳読してもらいます。最後に和訳のプリントを配布します。予習は不要です。
- 〔第3回〕 プリント暗唱は前回の【第2回】と同じ要領で行います。その後、英語のプレゼンテーションの読解に挑戦してもらいます。教材は最近のTEDで取り上げられたプレゼンテーションを取り上げる予定です。やり方は上記のCNN10と同じです。プリントには注釈をつけておきますので、予習は不要です。最後に和訳のプリントを配布します。
- 〔第4回〕 プリント暗唱に続いて、CNN10のニュースの音読と訳読に再び挑戦してもらいます。取り上げるのは【第2回】とは別のニュースになります。
- 〔第5回〕 プリント暗唱に続いて、TEDのプレゼンテーションの音読と訳読を行います。取り上げるのは【第3回】とは別のプレゼンテーションとなります。
- 〔第6回〕 プリント暗唱の後、英語の新聞の報道記事に挑戦してもらいます。今年のThe Japan Timesの記事の1つに注釈をつけたものを【第5回】の授業時に配布し、段落1つずつを音読し和訳する担当者を段落ごとに割り当てておきます。今回と【第7回】の2回に分けて読んでいく予定です。
- 〔第7回〕 プリント暗唱の後、前回に引き続き、The

Japan Timesの記事を読んでいきます。最後に和訳のプリントを配布します。

- 〔第8回〕 プリント暗唱の後、The New York Timesの報道記事に挑戦してもらいます。やり方は前回までの講読と同じです。今回と【第9回】の2回に分けて読んでいく予定です。
- 〔第9回〕 プリント暗唱の後、引き続きThe New York Timesの記事を扱います。最後に和訳のプリントを配布します。
- 〔第10回〕 The Japan Timesの記事を2回にかけて扱いますが、今度はコラムに挑戦してもらいます。やり方は従来通りです。
- 〔第11回〕 The Japan Timesの続きを読みます。最後に和訳のプリントを配布します。
- 〔第12回〕 筆記試験による総括を行います。

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

暗唱プリントの進捗状況（40点満点）、授業時の英文の読解力（10点満点）と最終日の試験結果（50点満点）に基づいて決定します。

科目 英語（リーディング）B

1 単位

担当 法学部教授 小屋逸樹

国際的な環境でビジネスを行う際に必要とされる基本的な知識や留意点を、毎回異なるトピックを通して確認していきます。異文化間交流において誤解を生みやすい対応や話し方を検証しながら、総合的な英語力の向上を目指します。

- 〔第1回〕 Globalization in Business and Culture
- 〔第2回〕 Business Manners: Body Language
- 〔第3回〕 Names, Titles, and Terms of Respect
- 〔第4回〕 Business Etiquette
- 〔第5回〕 Individualism and Group Spirit
- 〔第6回〕 Working Overseas
- 〔第7回〕 Coping with Language and Culture Shock
- 〔第8回〕 Hospitality and Friendship
- 〔第9回〕 Negotiations: Cultural Differences
- 〔第10回〕 Negotiating for “Win-Win” Solutions
- 〔第11回〕 US and Japanese Business: A Case Study
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

- ・宍戸真&Bruce Allen『異文化理解と国際ビジネス——Global Understanding』（成美堂）ISBN978-4-7919-4066-0

◆成績評価方法

最終日の試験、及び平常点

科目 英語（リーディング）C

1 単位

担当 文学部助教 加藤有佳織

英文読解力を充実させるために、速読練習とテキスト精読を行ないます。速読練習については予習不要ですが、各自単語や文法事項の復習をしてください。確認のための小テストを実施します。テキスト精読は現代短編小説を教材とし、内容の要約や文法事項の確認をしながら精読力をみがきます。精読についてはよく予習をして授業にのぞみましょう。

〔第1回〕 イントロダクション；速読 #1

〔第2回〕 速読 #2；精読 #1

〔第3回〕 速読 #3；精読 #2

〔第4回〕 速読 #4；精読 #3

〔第5回〕 速読 #5；精読 #4

〔第6回〕 速読 #6；精読 #5

〔第7回〕 速読 #7；精読 #6

〔第8回〕 速読 #8；精読 #7

〔第9回〕 速読 #9；精読 #8

〔第10回〕 速読 #10；精読 #9

〔第11回〕 速読 #11；精読 #10

〔第12回〕 まとめ・試験

◆ テキスト

プリントを適宜配布する。

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

英和辞書あるいは英英辞書を必ずお持ちください。

◆ 成績評価方法

平常点（60%）・最終日試験（40%）による総合評価とします。

科目 英語（リーディング）D

1 単位

担当 講師 藤井 誠

メディア英語の読解を通じて、英語にたいする理解力の向上を目指します。まず、英文の内容を理解し、その過程において、メディア英語特有の語学的特質を理解していきます。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 国内政治

〔第3回〕 経済・ビジネス

〔第4回〕 外交

〔第5回〕 軍事

〔第6回〕 海外情勢

〔第7回〕 文化・社会

〔第8回〕 犯罪・事件

〔第9回〕 裁判

〔第10回〕 地球環境

〔第11回〕 気象・災害

〔第12回〕 試験・総括

◆ テキスト

・堀江洋文他『English for Mass Communication』（朝日出版社、2018年）
ISBN978-4-255-15626-2

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

毎回英和辞典・英英辞典等を持参すること。

◆ 成績評価方法

授業での発言・発表等（20%）

課題20%

試験60%

科目 英語（リーディング）E

1 単位

担当 文学部教授 大串尚代

アメリカ社会・文化事情について書かれた文章を読み、英語で情報を取得するという経験を通じ、英語読解力を習得していきます。読み方のスキルの他に、語彙力もつくようなテキストを用います。

〔第1回〕 American Culture and Values

〔第2回〕 The American Value of Individualism

〔第3回〕 John Muir and Conflicting American Values

〔第4回〕 Languages in the United States

〔第5回〕 African American Vernacular English

〔第6回〕 Walt Whitman: A Man of Words

〔第7回〕 Immigration in the United States

〔第8回〕 Who Belongs to “Generation 1.5?”

〔第9回〕 Leonid Yelin: An Immigrant’s Story

〔第10回〕 Road Trip, USA

〔第11回〕 Myth of the American West

〔第12回〕 総括および期末試験

◆ テキスト

・Cheryl Benz, Stephen Benz『Impressions: America through Academic Readings 1』（Heinle, Cengage Learning、2008年）
ISBN978-0-618-41026-2

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

基本的な英語文法を習得していることが前提となります。毎回の予習は必要です。

◆ 成績評価方法

出席および平常点、期末試験によります。

科目 英語（リーディング）F

1 単位

担当 講師 有賀明子

英文ニュースの記事を読み、時事英語表現と読解のスキルを習得する。発音を確認後、単語（語義、慣用句の把握）、文法（構文の正しい理解）、文章の構成（論理、さらには内容に対する自分の考え）すべてに注意を払いながら本文を読む。毎授業時に小テストを実施し、既習部分の理解度を測る。

〔第1回〕 〈政治〉 イントロダクション、都議会議員選挙 自民党歴史的敗北（小池）知事支持派大勝

〔第2回〕 〈経済・ビジネス〉 日欧、大型自由貿易協定締結に向けて急ピッチの交渉

〔第3回〕 〈外交・国際会議〉 G7首脳 気候変動で意見対立 貿易問題は一定の歩み寄り

〔第4回〕 〈軍事〉 米中に溝、北朝鮮の新たな大陸間弾道ミサイルの脅威への対応で

- 〔第5回〕 〈文化・社会〉 教員の長時間労働、「過労死」の危険性
 〔第6回〕 〈犯罪・事件〉 金正恩氏の異母兄（・金正男氏）を複数の女が暗殺か 韓国が疑念を表明
 〔第7回〕 〈裁判・法令〉 最高裁判決 令状なし GPS捜査は違法
 〔第8回〕 〈気象・災害〉 九州地方で豪雨、河川氾濫で行方不明者10人とも
 〔第9回〕 〈人口問題〉 日本の人口8年連続減の一方で、外国人人口は増加
 〔第10回〕 〈テクノロジー〉 ロボットに職を奪われる小売業の店員たち
 〔第11回〕 〈スポーツ〉 15歳久保、U-20ワールドカップ日本代表に
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・堀江洋文ほか編著、『時事英語の総合演習 ―2018年度版―』（朝日出版社、2018年）
 ISBN978-4-255-15626-2

◆成績評価方法

授業への出席と貢献度（30%）、試験（70%）によって評価する。

科目 英語（ライティング） 1

1単位

担当 講師 津田敦子

センテンスレベルでのライティングからパラグラフ、エッセイの書き方を学びます。センテンスライティングの段階では、主に文法や語彙に注目し、正確な英文の書き方を練習します。その後、複数の文から成り立つパラグラフの構成や論理的展開を理解し、最終的にエッセイへの応用ができるように講義や演習を組み立てていきます。自分の伝えたいことを正しく、効果的に英文で表現する能力を養うことがこの授業の目的です。

- 〔第1回〕 Introduction
 - Diagnostic test
 〔第2回〕 Sentence Writing
 - Sentence Structure（1）
 - Paraphrasing
 〔第3回〕 Sentence Writing
 - Sentence Structure（2）
 - Summarizing
 〔第4回〕 Sentence Writing
 - Vocabulary and Word Choice
 - Dictionaries
 〔第5回〕 Paragraph Writing
 - Organization
 - Types
 - Unity
 - Coherence
 〔第6回〕 Paragraph Writing
 - Topic Selection（Brainstorming）
 - Main Idea
 - Supporting Details and evidence
 - Punctuations

- 〔第7回〕 Paragraph Writing
 - Proofreading
 - Revising
 〔第8回〕 Essay Writing
 - Types
 - Process
 〔第9回〕 Essay Writing
 - Introduction
 - Conclusion
 〔第10回〕 Essay Writing
 - Body Paragraphs
 〔第11回〕 Essay Writing
 - Peer feedback
 - Consultations
 〔第12回〕 Final Review and Essay Submission

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

- 1) 初回の授業で簡単なレベルチェックを行い、その結果によって授業の内容に多少の変更が生じるかもしれません。
- 2) 課題はタイプして印刷したものを提出していただくので、事前にPCの準備やその使い方を確認しておいてください。
- 3) 授業中少人数のグループで答え合わせや意見交換を行ったり、お互いのライティングについてコメントするなどのアクティビティーが予定されていますので、クラスメイトと楽しみながら積極的に授業に参加していただきたいと思います。

◆成績評価方法

出席 20%
 授業参加度 20%
 課題 30%
 Final Essay 30%

科目 英語（ライティング） 2

1単位

担当 医学部准教授 小町谷尚子

英作文は、自分の言いたいことを英語で書き表す勉強です。英作文を上達させるには、英語特有の発想法を学ぶ必要があります。練習を積み重ねて、質の良い英文や英語らしい表現を自分のものにしていきましょう。

毎回、テキストのユニットを二つ程度進みます。平易な例文を活用できるように学習していきましょう。

- 〔第1回〕 動詞を理解する
 〔第2回〕 目的語と補語を理解する
 〔第3回〕 疑問文と否定文を理解する
 〔第4回〕 現在形・現在進行形と過去形を理解する
 〔第5回〕 完了形と未来形を理解する
 〔第6回〕 助動詞と名詞の使い方を理解する
 〔第7回〕 言葉を修飾する方法を理解する：形容詞（句）と副詞（句）
 〔第8回〕 動名詞と不定詞を理解する
 〔第9回〕 前置詞を理解する
 〔第10回〕 比較、態、接続表現を理解する
 〔第11回〕 関係詞、話法、仮定法を理解する

〔第12回〕 試験と総括

◆ テキスト

- ・本多吉彦、土屋武久『College Grammar Pathfinder 基本文法から始める大学英語』（金星堂、2012年）ISBN978-4-7647-3933-8

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

このコースは、英語で作文という単語の置き換えに終始してしまう人や英語的な発想で作文したいと思っている人を対象とします。発想力と表現力を高めることがねらいです。テキストには100語程度の英文パラグラフも出てきます。文単位からパラグラフ単位の文章にも親しみ、自然な流れの作文の習得も視野に進めます。

毎回Quick Review of Grammar Points（各回2つ分）に目を通して授業に臨んでください。

辞書は必携です。自ら辞書を引いて、英文を書くことで、英作文の力が身に付きます。

◆ 成績評価方法

成績は出席と学習姿勢（30%）、授業中の課題（30%）、最終試験（40%）の総合評価とします。

科目 英語（ライティング） 3

1 単位

担当 経済学部准教授 志村明彦

高校までのライティングでは、文レベルの作文、特に和文英訳を学ばれた方が多いと思います。しかし、ライティングとは本来、書き言葉を使つてのコミュニケーションであるということを考えれば、複数の文から構成されるパラグラフを書く必要がでてきます。また、パラグラフについて学び練習することは、リーディング・スピーキング・リスニングの実践にも役立ちます。そこで、本講座ではパラグラフ・ライティングを学びます。最初に英語のパラグラフの構造を学び、次にパラグラフのタイプ別にライティングの練習をします。時間があれば、複数のパラグラフから構成される簡単なエッセイの書き方についても学びます。

〔第1回〕 パラグラフライティング入門

〔第2回〕 教科書第1章

Paragraphの基本的な構造とtopic sentence

〔第3回〕 教科書第2・3章

Paragraphを構成する他の要素

〔第4回〕 教科書第4章

Paragraphの質を高める要素

〔第5回〕 Reason Paragraph入門

〔第6回〕 Reason Paragraph Writing Workshop in Class

〔第7回〕 教科書第5章

Comparison or Contrast Paragraph 入門

〔第8回〕 Comparison or Contrast Paragraph Writing Workshop in Class

〔第9回〕 Problem and Solution Paragraph入門

〔第10回〕 Problem and Solution Paragraph Writing Workshop in Class

〔第11回〕 教科書第6章

Essay Writing

〔第12回〕 総括・試験

〔その他〕 小テスト

◆ テキスト

- ・津田塾大学英文学科編『パラグラフから始める英文ライティング入門〔改訂版〕』（研究社、2001年）ISBN978-4-327-42157-1

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

本講座では大量にライティングをすることになるので、頑張ってください。また、講義ではできるだけ英語を使いたいと思います。よって予習が非常に重要になってきます。最初の授業までに、テキストの第1章（余裕のあるかたは1～3章）の本文（のみ）を読んできてください。なお、授業では教科書の本文を音読してもらうこともあります。テキストの音読の練習もお忘れなく。

授業では辞書を使いますので、例文の豊富な辞書を持ってきてください。また、課題はワープロで作成したものを提出してもらいますので、事前にPCやワープロソフト等の準備とその使い方について学んでください。

◆ 成績評価方法

出席：10%

参加：10%

課題：60%

最終日試験：20%

科目 英語（ライティング） 4

1 単位

担当 講師 由井口バート

英語で理論的な文を書き、自分の主張や説明などを読んだ人に伝える事を目的としています。授業では各自英文を作成し、作文の構築法に従って説得力のある明確な文を書く練習をします。最終的にある程度の長文を書く事を目指します。明確さや理論性を重視する英文においてはスキルやルールも重要です。文を書く事が得意でない人も、他の受講生を気にせずに丁寧に自分なりのペースで文を書いてもらいます。書く力を身につけるには実際に多くの文を書く事が一番良い方法で、多く書く事により作文力が上がります。出された課題に対し下書きをし、それを講師が添削し、仕上げて行きます。良い文を書くのが目的ですので、繰り返し書く事により書く力が養われていきます。随時新しい課題がだされますが、この授業では課題を幾つ終わらすかではなく、書いた内容を重視しますので、この課題に対し丁寧に取り組んで欲しいと思います。授業の内容はクラスの人数、課題の進み具合により、内容が前後する場合があります。（課題は10ありますが、全ての課題を早く終わらせた人たちには新たに課題が与えられます。）

〔第1週〕

自己紹介：各自英語で自己紹介の文を書いてもらいます。

〔第2週〕

語彙チェック：英文を書く場合ある程度の語彙が必要に成ります。ここでは辞書を使わないで語彙チェック課題が出ます。

〔第3週〕

人物を描写する：英語で人物の特徴、外見などを説明します。

〔第4週〕

風景描写をする：景色などを英語でいかに正確に表せるか挑戦します。

〔第5週〕

道案内の文を書く：道順を説明するのは何語でも難しいですが、この回は英語で道順の説明を書きます。

〔第6週〕

日本昔話を書く：既にある昔話を英語で書きます。どの昔話を選ぶかは個人の自由です。

〔第7週〕

詩を書く：英語で詩を書くことに挑戦してもらいます。どのような詩を書くかは授業で説明をします。

〔第8週〕

説明文を書く：英語で何かの説明文を書いてもらいます。各自得意な物を選んで書いてもらいます。

〔第9週〕

故事成語：故事成語の由来と使い方を英語で説明してもらいます。何を選んで説明するかは自由です。

〔第10週〕

比較／対比：英語で何かを比較／対比してもらい、説明文を書いてもらいます。

〔第11週〕

最終課題：最終課題（長文）は前の授業で発表します。最終課題は下書きをし、添削の後に提出する為に清書をしてもらいます。

〔第12週〕

最終課題：最終課題の添削をし、清書しての提出になります。提出する場合は全員同じ用紙でしてもらいます。

◆ テキスト

・指定しない。

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

辞書（電子辞書、スマートフォン、タブレットなども可）を必ず持参する事。ただしコンピューターを使つての作文は禁止です。この授業は全て手書になります。これはコンピューターを使った場合、スペルチェックなどが入り、書く練習にならないからです。その他の必要な事柄については初回の授業で説明をします。（例：作文を書く場合は提出する最終課題以外は全てエンピツ、フリクションペンなどの消せる物を使う。）

◆ 成績評価方法

この授業の性質上、毎回出席を確認し、課題を一つ一つ終わらせていきます。ただし、最初に述べたように、終わらせた課題の数ではなく、内容と表現力を重視して評価します。全ての課題が終了していても大丈夫です。ただし最終課題は全員提出になります。最終課題は評価の30%、他の課題は総合的に50%、出席は20%になります。ただし、正当な理由（病気など）がない授業の欠席が3回以上ある場合は自動的にDになりますので注意してください。

科目 英語（ライティング） 5

1単位

担当 講師 井上愛子

伝えたい内容を論理的に英語で書くスキルを英語で書かれたテキストで学びます。大学生として必要なライティングスキルを磨くことを目的としています。最初是一个の paragraph に一つの主題を述べる形式（format）を学びます。英語で論文を書くときに必須の知識です。次に伝えたいことを論理的に伝えるための構成（structure）を学びます。そして首尾一貫性（unity & coherence）のある文章になっているかを確認できるようにします。その中で、文法（grammar）の確認、表現書き換え（paraphrasing）の演習を行います。論文を書くにあたって大切なルールなども学び、参考文献リストの作り方についても学びます。書くことを学ぶ一方でお手本となる文章をたくさん読むことで英語の文章の特徴をつかめますので、リーディング課題も適宜出します。進捗状況によっては、複数の paragraph から構成される essay writing の練習も行います。本学の経済学部必修科目であるステディスキルの授業で使用されているテキストの本文を読み、exercisesなどの課題に取り組むことにより、上記のアカデミックスキルを修得していきます。

〔第1回〕 Introduction

〔第2回〕 Paragraph format

〔第3回〕 Paragraph format and structure

〔第4回〕 Paragraph structure

〔第5回〕 Paraphrasing

〔第6回〕 Unity and coherence

〔第7回〕 Writing a paragraph

〔第8回〕 Peer feedback

〔第9回〕 Essay writing

〔第10回〕 Reading exercise and summary writing

〔第11回〕 Paragraph writing exercise

〔第12回〕 試験・総括

〔その他〕 課題・レポート、小テストが適宜あります

◆ テキスト

・慶應義塾大学経済学部英語部会編著『Study Skills for College English』（慶應義塾大学出版会）ISBN978-4-7664-1794-4

◆ 参考文献

授業内で適宜お知らせします。

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

英英辞書を使用しますので持参ください。しばらく英語に触れていなかった人は高校レベルの文法と語彙の復習をしておいてください。授業の予習復習がとても大切なので、頑張ってください。

◆ 成績評価方法

出席（20%）授業参加（20%）課題（40%）試験（20%）ただし、正当な理由なく授業の欠席が3回以上ある場合は単位が認められませんのでご注意ください。

科目 英語（ライティング） 6

1 単位

担当 講師 藤井 誠

ライティングというと、与えられた日本語を英語にする行為と考えがちですが、英語のパラグラフライティングでは、書き手の自由な発想で論理的な英文を作成する力が問われます。授業では、英語のライティングの基本となるパラグラフの構成を理解するとともに、様々なシチュエーションで求められる英語の基本表現にも重点を置き、英語のコミュニケーション能力の向上を目指します。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 英文ライティングの基本
- 〔第3回〕 英語の基本構造
- 〔第4回〕 パラグラフとは何か
- 〔第5回〕 テーマを絞る
- 〔第6回〕 主題文とは

- 〔第7回〕 支持文について
- 〔第8回〕 パラグラフのスタイルについて
- 〔第9回〕 首尾一貫性について
- 〔第10回〕 話題転換語について
- 〔第11回〕 結論文について
- 〔第12回〕 総括

◆ テキスト

- ・遠藤功樹『A Passage to Paragraph Writing』（センゲージラーニング、2011年）
ISBN978-4-86312-182-9
- ・安達一美他『English Writing for Global Communication』（金星堂、2007年）
ISBN978-4-7647-3851-5

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

毎回必ず英和辞典、和英辞典等を持参すること。

◆ 成績評価方法

授業参加20% 課題20% 試験60%

外国語科目／ドイツ語

科目 ドイツ語（初級前期）Ⅰ—A

1 単位

担当 名誉教授 中山 豊

初級前期は、ABC、発音の仕方から始めて、ドイツ語文法の基本ルールを学習し、ドイツ語を読み、書き、聞き、話すことのしっかりとした基礎をつくる。教科書の約半分、zu不定句のところまで学習する。

- 〔第1回〕 アルファベート、第1課：発音
- 〔第2回〕 第2課：動詞の現在人称変化
- 〔第3回〕 第3課：冠詞と名詞（単数）
- 〔第4回〕 第4課：冠詞類
- 〔第5回〕 第5課：前置詞
- 〔第6回〕 第6課：名詞の複数形
- 〔第7回〕 第7課：動詞の人称変化（特殊）、命令形
- 〔第8回〕 第8課（1）：話法の助動詞
- 〔第9回〕 第8課（2）：未来形
- 〔第10回〕 第9課：定形後置
- 〔第11回〕 第10課：zu不定句
- 〔第12回〕 まとめと試験

◆ テキスト

- ・大谷弘道・井戸田総一郎・岩下眞好・大畑純一・識名章喜編『新編初歩ドイツ語』（慶應義塾大学出版会、1995年）ISBN978-4-7664-0260-5

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

この段階は、今後のドイツ語のあらゆる学習の基礎となるものなので、きちんと身につけてほしい。

◆ 成績評価方法

スクーリング最終日の試験によって評価する。

科目 ドイツ語（初級前期）Ⅰ—B

1 単位

担当 経済学部教授 七字眞明

ドイツ語（初級前期）Ⅰ—Aと同じ。

科目 ドイツ語（初級後期）Ⅱ—A

1 単位

担当 講師 津崎正行

初級後期は、初級前期に引き続いてドイツ語の文法の基礎を学ぶ。教科書の後半、形容詞以後を学習する。

- 〔第1回〕 初級前期の総ざらい
- 〔第2回〕 第11課：形容詞の変化
- 〔第3回〕 第12課：分離動詞
- 〔第4回〕 第13課：再帰動詞
- 〔第5回〕 第14課：動詞の3要形と過去
- 〔第6回〕 第15課：現在完了
- 〔第7回〕 第16課：受動形
- 〔第8回〕 第17課：関係代名詞
- 〔第9回〕 第18課：接続法の形態
- 〔第10回〕 第19課：接続法の用法（1）—間接話法
- 〔第11回〕 第20課：接続法の用法（2）—非現実話法
- 〔第12回〕 まとめと試験

テキスト、注意事項等は、ドイツ語（初級前期）Ⅰ—A、Bと同じ。

科目 ドイツ語（中級）Ⅲ—A

1 単位

担当 講師 中川純子

この授業ではドイツの新聞記事の読解に取り組みます。今学期のテーマは「難民・移民」を予定しています。Die ZeitやFAZなどの全国紙の論説やコラムを選び、毎回の授業で和訳しながら内容を読み解いていきます。新聞記事のドイツ語は独和辞典だけでは簡単に理解できないものが多く含まれます。それは新しい言葉であったり、ドイツの社会や文化では当たり前のこととして知られている事柄だったりします。新聞を読む上で重要なポイントやコツを抑え、インターネット

トの情報を検索し、背景問題にも触れながら読解を進めていきたいと思っています。また読むだけでなく、その内容について参加者の皆さん同士が意見交換したり、関心のある事柄について調べて発表するなどの課題にも取り組んでいただきます。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 読解

〔第3回〕 読解

〔第4回〕 課題発表1

〔第5回〕 読解

〔第6回〕 読解

〔第7回〕 課題発表2

〔第8回〕 読解

〔第9回〕 読解

〔第10回〕 課題発表3

〔第11回〕 読解

〔第12回〕 期末テスト

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回の参加時の平常点と、課題発表ならびに最終日の試験から総合的に評価します。授業への積極的な参加を希望します。

◆成績評価方法

その他、事務局に対するご連絡事項がありましたらご記入ください。

科目 ドイツ語（上級）Ⅳ—A

1単位

担当 法学部教授 三瓶慎一

受講者のみなさんがあらかじめインターネットで探してきたドイツ語の文字テキストを読んだり、音声テキストを聴いたりします。ドイツ語圏のニュースソースに自らアクセスして、1次情報を入手できるようにすることが目標です。

したがって、この授業を受講するには、随時コンピュータを使ってインターネットにアクセスしてネットサーフィンをしたり、電子メールであらかじめファイルを送信したりといった、基本的な操作ができること、およびそのための環境にあることが条件です。（授

業に関する連絡はすべて電子メールで行います。）

コンピュータが自宅にない場合は多少ハンディがありますが、大学のコンピュータを有料で利用することもできますので、個人アカウントの取得など、必要な手続きをして下さい。

受講に際しての問合せや質問はES2017@sambe.jp宛にメールを送って下さればお答えします。

また受講が決定した段階で、上記のアドレスにメールで連絡して下さい。授業用のメイリングリストを作成します。

〔第1回〕 テキスト（その1）の読解・聴解

〔第2回〕 テキスト（その2）の読解・聴解

〔第3回〕 テキスト（その3）の読解・聴解

〔第4回〕 テキスト（その4）の読解・聴解

〔第5回〕 テキスト（その5）の読解・聴解

〔第6回〕 テキスト（その6）の読解・聴解

〔第7回〕 テキスト（その7）の読解・聴解

〔第8回〕 テキスト（その8）の読解・聴解

〔第9回〕 テキスト（その9）の読解・聴解

〔第10回〕 テキスト（その10）の読解・聴解

〔第11回〕 テキスト（その11）の読解・聴解

〔第12回〕 テキスト（その12）の読解・聴解

◆テキスト

・指定しない。

・インターネット上で受講者自らが探してきた、各自の関心に応じた文字・音声テキスト。

◆参考文献

・適宜紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

・電子メールアドレス（携帯アドレスは不可）を持っていること。

・コンピュータの基本的な操作ができること。

・毎回の授業以前にインターネットサーフィンができること。

・電子メールを常時チェックする習慣があること。

◆成績評価方法

平常点を基本とし、場合によってはレポートの提出を求めることも考えていますが、そもそも授業方法が少々独特ですから、成績評価の方法も異色のものを考えようと思っています。

外国語科目／フランス語

科目 フランス語（初級前期）Ⅰ—A

1単位

担当 講師 森 千夏

フランス語の初級文法の授業です。「綴りと発音」から始めて「目的語人称代名詞の位置」までを学習します。教科書は0課から10課までを学習します。毎回教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で授業を進めていきます。

〔第1回〕 Leçon 0 綴りと発音

〔第2回〕 Leçon 1 「名詞の性と数」・「冠詞」・「提

示表現」

〔第3回〕 Leçon 2 「主語人称代名詞」・「動詞êtreとavoirの直接法現在形」・「疑問文に対する答え方」

〔第4回〕 Leçon 3 「-er型規則動詞と-ir型規則動詞の直説法現在形」・「形容詞」

〔第5回〕 Leçon 4 「指示形容詞」・「所有形容詞」・「強勢人称代名詞」

〔第6回〕 Leçon 5 「否定文・否定のde」・「疑問文」・「否定疑問文に対する答え方」

〔第7回〕 Leçon 6 「不規則動詞allerとvenirの直接法現在形」・「近接未来と近接過去」・「前

- 置詞àとdeと定冠詞の縮約」・「強調構文」
- 〔第8回〕 Leçon 7 「疑問形容詞」・「疑問副詞」・「疑問代名詞（1）一性・数変化しないもの一」
- 〔第9回〕 Leçon 8 「命令法」・「非人称構文」・「疑問代名詞（2）一性・数変化するもの一」
- 〔第10回〕 Leçon 9 「比較級」・「最上級」・「特殊な優等比較級・優等最上級」
- 〔第11回〕 Leçon 10 「人称代名詞」・「目的語人称代名詞の位置」
- 〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト

・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）ISBN 978-4-255-35184-1

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語を初めて学ぶ学生を対象とします。1回の授業で教科書の1課を学習するという比較的速いペースで進みますので、授業前の予習と授業後の復習は不可欠です。予習に関しては、授業前に授業で学ぶ課の文法説明を一読して理解するよう努めるようにしてください。復習に関しては、教科書の練習問題はもちろん、付録の文法問題も必ず解き、授業で学習した課の内容を確実にマスターするよう心がけてください。なお、教科書にはCDも付いていますので、フランス語の発音の学習に大いに役立ててください。

一般に、語学の学習にとって反復練習は欠かせません。動詞の活用を含めた文法事項は、何度も音読して暗記し、また忘れたら覚え直すという作業を繰り返す、できるだけ多くの文法練習の問題を解くようにしてください。この作業を繰り返すうちに確実にフランス語の実力がつくようになるでしょう。

◆成績評価方法

平常点および最終試験による。

科目 フランス語（初級前期）Ⅰ—B	1単位
担当 講師 小嶋竜寿	

フランス語（初級前期）Ⅰ—Aと同じ。

科目 フランス語（初級後期）Ⅱ—A	1単位
担当 講師 原山重信	

フランス語初級前期にひきつづき、「過去分詞」から「接続法」までを学習します。教科書は11課から20課までを学習します。1回の授業で教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で進めていきます。なお初回の授業は前期に学習した文法の復習に充てます。

- 〔第1回〕 Leçon 6からLeçon 10までの文法事項の復習
- 〔第2回〕 Leçon 11 「過去分詞」・「直説法複合過去」
- 〔第3回〕 Leçon 12 「代名動詞」
- 〔第4回〕 Leçon 13 「中性代名詞 en, y, le」

- 〔第5回〕 Leçon 14 「関係代名詞」
- 〔第6回〕 Leçon 15 「受動態」・「指示代名詞」・「所有代名詞」
- 〔第7回〕 Leçon 16 「直説法半過去形」・「直説法大過去形」
- 〔第8回〕 Leçon 17 「直説法単純未来形」・「直説法前未来形」
- 〔第9回〕 Leçon 18 「現在分詞」・「ジェロンディフ」
- 〔第10回〕 Leçon 19 「条件法現在形・過去形」
- 〔第11回〕 Leçon 20 「接続法現在形・過去形」
- 〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト

・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）ISBN978-4-255-35184-1

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語初級前期を終えた学生、またはそれと同程度の知識を持つ学生を対象とします。この科目の受講希望者は、第1回目の授業の前までに『アトリエ・フランセ』の特に6課から10課までを自主学習しておいてください。第1回目の授業ではこれらの課の簡単な復習をします。

テキスト、注意事項などはフランス語（初級前期）Ⅰ—A、Bと同じです。

◆成績評価方法

平常点および最終試験による。

科目 フランス語（中級）Ⅲ—A	1単位
担当 講師 アブリアル、ジャン-ピエール	

初級で学んだ文法を会話で話す能力を高め、さらに発展させることを目的とします。日本人が陥りやすい間違いをさまざまな角度から取り上げ、自然なフランス語で表現できるようになることを目指します。

特に冠詞、前置詞、動詞の正しい使い方について復習しながら理解を深めていきます。そして学んだことを応用して表現力を向上させていくようにします。

- 〔第1回〕 イントロダクション
挨拶の仕方、自己紹介の仕方
名前の尋ね方
- 〔第2回〕 単語のスペルや発音の確かめ方
フランス語でどう言うか尋ねる・言葉の意味を尋ねる
何かを借りる場合の言い方・お礼の言い方
- 〔第3回〕 何かを勧める・断る
体調を話題にする
- 〔第4回〕 家族のことを尋ねる・話題にする
年齢を尋ねる・話題にする
数の数え方
- 〔第5回〕 親密な言い方で話すように提案する（tuで話す）
誕生日と星座を話題にする
出身地を話題にする
国籍を話題にする
- 〔第6回〕 住んでいる所について話題にする

- 住んでいる所について説明する
- 〔第7回〕 地理の説明
出生地の説明
- 〔第8回〕 通学の説明
道を尋ねる
- 〔第9回〕 専攻と学年を話題にする
将来の学業や過去の学業を話題にする
- 〔第10回〕 動詞aimer, adorer等の様々な使い方
趣味についての表現方法
好きなこと・嫌いなことについての表現方法
- 〔第11回〕 過去形の様々な使い方
過去の経験を話題にする
好きなこと、将来の夢について話題にする
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・ジャンピエール・アブリアル『フランス人と友だちになる——やさしいフランス語会話』（三修社、2004年）ISBN978-4-384-05224-4

◆受講上の要望または受講上の前提条件

積極的に授業に参加すること。
会話の練習ですから、間違いを恐れず、どんどん口を開いて話すことが大切です。

自分から話そうとする積極的な姿勢で毎回の授業に臨んでください。

みなさんが105分のあいだ、できるだけフランス語で話せるように工夫すること。

◆成績評価方法

平常点を重視し、最終回に口頭試験を行います。

◆テキスト

- ・オーギュスト・ロダン『芸術について』（駿河台出版社、1965年）ISBN978-4-411-01658-4

◆参考文献

- ・朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』（白水社、2002年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

一通り初級文法をマスターし、中・上級レベルの読み物を読んでみたいという意欲のある方向けの講座です。毎時間、予習が必要です。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 フランス語（上級）Ⅳ—A 1単位

担当 経済学部専任講師 山本武男

- 〔第1回〕 『ロダンの言葉』序、第一章「芸術に於ける写実主義」Ⅰ（p.i-2）
- 〔第2回〕 『ロダンの言葉』第一章Ⅱ 第二章「芸術家にとって自然はすべて美しい」Ⅰ（p.26）
- 〔第3回〕 『ロダンの言葉』第二章「芸術家にとって自然はすべて美しい」Ⅱ（p.6-12）
- 〔第4回〕 『ロダンの言葉』第二章Ⅲ 第三章「芸術に於ける動き」Ⅰ（p.12-17）
- 〔第5回〕 『ロダンの言葉』第三章「芸術に於ける動き」Ⅱ（p.17-21）
- 〔第6回〕 『ロダンの言葉』第三章Ⅲ 第四章「芸術に於ける神秘の領域」Ⅰ（p.21-25）
- 〔第7回〕 『ロダンの言葉』第四章Ⅱ 第五章「フェイディアスとミケランジェロ」Ⅰ（p.25-31）
- 〔第8回〕 『ロダンの言葉』第五章「フェイディアスとミケランジェロ」Ⅱ（p.31-35）
- 〔第9回〕 『ロダンの言葉』第五章Ⅲ 第六章「ルーヴルにて」Ⅰ（p.35-40）
- 〔第10回〕 『ロダンの言葉』第六章「ルーヴルにて」Ⅱ（p.40-45）
- 〔第11回〕 『ロダンの言葉』第六章「ルーヴルにて」Ⅱ（p.45-50）
- 〔第12回〕 総括・試験

2 文学部専門教育科目

第1類に属する科目

科目 哲学（専門）

2単位

担当 講師 北村直彰／講師 石田隆太

本講義では、哲学の重要な一分野である形而上学において論じられてきた諸問題について考えることで、哲学そのものの理解を深めることを目指す。

石田のパートでは、西洋の伝統的な形而上学において問題とされてきたことの中からトピックを厳選し、毎回異なる問いを掲げて考察していく。具体的には、神と世界、無限、魂、存在と生、個体という五つのトピックについて考察することが主眼である。

北村のパートでは、伝統的形而上学の現代的展開として、英語圏で主流となった哲学的潮流（分析哲学）で論じられている形而上学の問題をとりあげる。とりわけ、存在論（「世界には何が（どのような種類のものが）存在するのか」という問いをめぐる探究）に属するトピックに焦点をあてて考察する。具体的には、下記のテキストの内容に即して、物質的対象、種、可能世界、虚構的対象という四つのトピックについて論じる。

〔第1回（石田）〕 イントロダクション

授業全体のプランを説明した後に、そもそも形而上学が西洋哲学（主として古代から近代）においてどのような学問として取り扱われてきたのかについて考える。

〔第2回（石田）〕 この世界はどのようにして存在したか？

この世界がどのように成立したのかあるいはなぜ存在したのかについて、神と世界という両極に焦点を当てて考える。

〔第3回（石田）〕 無限とは一体何か？

神、世界、魂に対してそれぞれ言われる無限というものの意味について考える。

〔第4回（石田）〕 魂は不死か？

魂のあり方に関する基本的な考え方を理解した上で、魂が不死であると言われることの意味について考える。

〔第5回（石田）〕 存在することと生きることは違うのか？

伝統的な形而上学で最も議論されてきた存在に関して、主として生との相異性について考える。

〔第6回（石田）〕 個体があることについて問題にすることはできるのか？

普遍があるのか否かを問題にし続けている普遍論争とは別に「個体論争」の可能性について考える。

〔第7回（北村）〕 現代存在論の方法と道具

現代の分析哲学における存在論（現代存在論）がどのような方法で探究を進めているのかを概説するとともに、現代存在論の重要な道具としての論理学について、本講義に必要な範囲で解説する。

〔第8回（北村）〕 物質的対象の構成と存続

身のまわりにある日常的な物質的対象と、それを構成する物質のかたまりはどのような関係にあるのか。また、物質的対象が時間のうちで変化しながらも同一のものとして存続する、とはどういうことなのか。物質的対象の存在をめぐる代表的な問題としてこれら二つの問いをとりあげ、どのような答え方がありうるかを検討する。

〔第9回（北村）〕 種の実在性と役割

日々の生活で目にしたり触れたりしている個々の物質や生物や人工物は、状況に応じて各々さまざまなあり方をもっているが、いずれも本質的に〈水〉や〈董〉や〈机〉といった特定の種に属している。しかし、個別的な対象やその性質に加えて、種というものが存在するのだろうか。この問いに肯定的に答える立場（実在論）の観点から、種と個別の対象との関係や、種が果たす理論的な役割について考える。

〔第10回（北村）〕 現実世界と可能世界

私たちの住んでいる現実世界の他に、「たまたま実現していないが実現することもありえた世界」（可能世界）が存在する、と言えるだろうか。この問いに対する答えとして、無数の可能世界がこの現実世界と同じように存在すると考える立場（ルイスの実在論）、可能世界は現実世界と異なり抽象的な対象にすぎないとする立場（現実主義）、可能世界についての語りがある種の便利なフィクションとして捉える立場（虚構主義）の三つをとりあげて考察する。

〔第11回（北村）〕 虚構の語りと虚構的対象

小説の登場人物や童話の中の出来事について語るとき、私たちは本当のところ何を語っているのか。そうした語りの中に現れる架空の事物（虚構的対象）は、まさにそれらに関する語りを受けいれられている以上、その他のものと同じ意味で存在すると言っただとすれば、それらはどのようなあり方をした対象なのか。これらの問いをめぐるさまざまな思考の道筋を探る。

〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

〔第1～6回（石田）〕

・プリントを適宜配布する。

〔第7～11回（北村）〕

・倉田剛『現代存在論講義Ⅱ―物質的対象・種・虚構』（新曜社、2017年）ISBN978-4-7885-1544-4

（注）上記のテキストは、参考文献として挙げた『現代存在論講義Ⅰ―ファンダメンタルズ』の続編であるが、受講にあたってⅠ巻を先に読んでおく必要はない。

◆参考文献

〔第1～6回（石田）〕

・ハイネツ・ハイムゼート（著）、座小田豊、後藤嘉也、須田朗、宮武昭、本間謙二（訳）『近代哲学の精神

ー西洋形而上学の六つの大テーマと中世の終わり』（法政大学出版局、1995年）

- ・安藤孝行『形而上学—その概念の批判的外観』（増補版）（勁草書房、1965年）
 - ・神崎繁『魂（アニマ）への態度—古代から現代まで』（岩波書店、2008年）
 - ・山内志朗『普遍論争—近代の源流としての』（平凡社、2008年）
- 〔第7～11回（北村）〕
- ・倉田剛『現代存在論講義Ⅰ—ファンダメンタルズ』（新曜社、2017年）
 - ・柏端達也『現代形而上学入門』（勁草書房、2017年）
 - ・スティーヴン・マンフォード（著）、秋葉剛史、北村直彰（訳）『哲学がわかる—形而上学』（岩波書店、2017年）
 - ・鈴木生郎、秋葉剛史、谷川卓、倉田剛（著）『ワードマップ 現代形而上学—分析哲学が問う、人・因果・存在の謎』（新曜社、2014年）
 - ・アール・コニー、セオドア・サイダー（著）、小山虎（訳）『形而上学レッスン—存在・時間・自由をめぐる哲学ガイド』（春秋社、2009年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。ただし、出席点も加味する。

科目 倫理学特殊

2単位

担当 講師 西山晃生

現代の倫理学で論じられるテーマのうち、人間のあり方について考えるときに避けて通ることのできないものを扱います。それぞれのテーマに関して、1～2回の講義で歴史的背景、論点、代表的立場を紹介する予定です（現代の哲学者、倫理学者だけを取り上げるわけではありません）。また、こうした議論を用いて身近な問題をどのように考えることができるのかを明らかにしていきます。最終的には、受講者の一人ひとりが自分の立場を確立できるようになることが目標です。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 意志

〔第3回〕 自由1

〔第4回〕 自由2

〔第5回〕 人生

〔第6回〕 幸福1

〔第7回〕 幸福2

〔第8回〕 性格

〔第9回〕 正義

〔第10回〕 人間と動物

〔第11回〕 生命

〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内』（慶應義塾大学出版会、2006年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

倫理学に関する予備知識は必要ありません。講義で提示される問題について、自分で考えてみてください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 芸術学

2単位

担当 講師 大木麻利子

19世紀後半のフランス絵画史における「彩色」概念の変容を取り上げます。

近代的な「彩色」および「色彩画家」概念の成立を促した決定的な要因の一つは「生理学的色彩」の発見であるといわれています。たしかにミシェル＝ウジェーヌ・シュヴルールによる「同時コントラストの法則」の発見やヘルムホルツの加法混色と減法混色の区別は画家の彩色観を根本から変化させました。しかし、それに先だつ「色彩画家」に特有の「目に見える筆触」や色斑性への注目、さらに古典的な「デッサン」概念の変質といった要因も無視することはできません。

授業では、ドイツ語とフランス語でほぼ同時に発表され、近代的な「彩色」概念の成立と普及に多大な影響を及ぼした著作、新印象派の画家ポール・シニャック（1863-1935）による『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義まで』（以下『新印象主義』と略す）を手掛かりとして、近代的な「彩色」概念成立の様相を探ります。シニャックが引用している色彩論だけではなく、それに類似した文献や同時代美術批評なども適宜取り上げます（予備知識は不要ですが、概念史と色彩理論に焦点を合わせた授業であることに注意して下さい）。

〔第1回〕 導入 シニャックの『新印象主義』と印象派の二世代

〔第2回〕 マネと印象派の画家たち

〔第3回〕 ドラクロワ以前の色彩画家①

〔第4回〕 ドラクロワ以前の色彩画家②

〔第5回〕 画家ドラクロワ

〔第6回〕 理論家ドラクロワ

〔第7回〕 『新印象主義』のなかのドラクロワ

〔第8回〕 シュヴルールの補色理論とその紹介（シャルル・ブランのドラクロワ論）①

〔第9回〕 シュヴルールの補色理論とその紹介（シャルル・ブランのドラクロワ論）②

〔第10回〕 『新印象主義』のなかの印象派とセザンヌ

〔第11回〕 『新印象主義』のなかのスーラ

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・適宜プリントを配布します。

◆参考文献

- ・授業で紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

予備知識は不要です。

◆成績評価方法

出席と試験で評価します。

科目 西洋美術史

2単位

担当 講師 大谷公美

キリスト教を主題とした美術作品は、西洋美術の展

覧会や欧米の美術館で目にする特別なものではなく、私たちの日常生活にとけ込んだイメージとしてごく身近に存在しています。

本講義では、古代から近代までのキリスト教図像のなかから、聖家族にまつわる主題を取り上げます。

まずは図像学的観点から読み解く方法を習得し、さらに歴史や文化といった広い視点からの考察を加味することによって、ひとつの作品が描かれた時代の信仰のあり方や信徒の日常生活にまで思いを巡らせる鑑賞の方法を学びます。

〔第1回〕 イントロダクションー美術史に関する情報収集の方法

〔第2回〕 聖母マリアの生涯

〔第3回〕 キリストの生涯

〔第4回〕 聖母子像（1）

〔第5回〕 聖母子像（2）

〔第6回〕 マギの礼拝（1）

〔第7回〕 マギの礼拝（2）

〔第8回〕 受胎告知（1）

〔第9回〕 受胎告知（2）

〔第10回〕 ヨセフ（1）

〔第11回〕 ヨセフ（2）

〔第12回〕 試験・総括

〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

- ・キリスト教に関する視覚芸術を対象としますが、あくまで美術史的観点からの講義となります。
- ・美術史、キリスト教学ともに知識がなくても理解できるレベルを想定しています。
- ・美術館や博物館を訪問し、できるだけ多くの作品に触れる機会を設けて下さい。

◆成績評価方法

出席状況、授業内レポート、試験により総合的に評価。

科目 音楽史

2単位

担当 講師 加藤浩子

オペラ入門と『オペラで読むヨーロッパ史』

「オペラ」をテーマとする。前半6回は「オペラ入門」として、「オペラとは何か」について概観し、オペラのさまざまな側面を紹介する。後半6回は、「オペラで読むヨーロッパ史」をテーマに、「モーツァルト三大オペラとフランス革命」「ヴェルディのオペラとイタリア統一運動」を取り上げる。

主な内容は以下の通り。

〔第1回〕～〔第6回〕

オペラ入門

オペラとは何か、オペラの特徴、オペラの楽しみ方

〔第7回〕～〔第12回〕

オペラで読むヨーロッパ史

どんな芸術でもそうだが、オペラも時代を投影する。今回は、18世紀末に起こったフランス革命がモーツァルトのオペラに、19世紀後半に行われたイタリア統一がヴェルディのオペラに、それぞれどう反映されてい

るかをさぐります。

◆テキスト

・加藤浩子『ようこそオペラ！』（春秋社、2011年）

◆参考文献

講義中に指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

音楽的な知識はとくに必要ないが、映像を使用するため、講義中の私語、飲食などは控えること。またやむを得ず遅れた場合の入室はくれぐれも静かに行ってほしい。

◆成績評価方法

原則としてレポート2回。出欠はとりませんが、平常点として、感想文の提出、小テストなどを課すことがあります。

科目 社会心理学（専門）

2単位

担当 講師 村山 陽

本授業では、社会心理学の基礎的知識を学ぶとともに、それを高齢社会の社会問題の解明に応用することを目指します。社会心理学とは、「心と社会との関係」を扱う学問です。研究対象は、個人、対人関係、集団・組織、社会全体と幅広く、様々な学問領域との相互連携が展開されております。そのため、高齢社会が抱える諸問題（高齢者への偏見、世代間ギャップ、高齢者介護など）の解決に向けて、社会心理学の知識が活用されることが大いに期待されます。

〔第1回〕 社会心理学とは（1）社会心理学の歴史・概念

〔第2回〕 社会心理学とは（2）社会心理学の研究手法

〔第3回〕 自己認知：自分を知る

〔第4回〕 対人認知（1）：人を理解する

〔第5回〕 対人認知（2）：ステレオタイプについて

〔第6回〕 社会的影響：社会を理解する

〔第7回〕 態度変化：人の気持ちを変える

〔第8回〕 攻撃と援助

〔第9回〕 社会的ジレンマ

〔第10回〕 高齢社会の社会心理学（1）高齢者サポート

〔第11回〕 高齢社会の社会心理学（2）世代間交流

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・山岸俊男編『社会心理学キーワード』（有斐閣、2001年）ISBN978-4-6410-5872-9
- ・その他にプリントを適時配布する。

◆参考文献

- ・山田一成他『よくわかる社会心理学』（ミネルヴァ書房、2007年）
- ・加藤潤三他『コミュニティの社会心理学』（ナカニシヤ出版、2013年）
- ・我妻洋『社会心理学入門 上・下』（講談社、1987年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講前に専門的知識は必要ありませんが、授業中に紹介される参考文献をできるだけ読んでもらいたいと思います。

◆成績評価方法

最終日の試験、出席状況、受講態度により評価します。

科目 宗教学

2単位

担当 講師 正木 晃

「宗教」を既存の枠組みにとらわれることなく、人間の心身両面にわたる活動として把握します。今の世界を読み解くために欠かせない「宗教」の実像を明らかにします。たとえば平和をめざすと信じられている宗教の名のもとに、なぜ戦いが起こり、人が殺されるのかという問いに答えます。日本人の精神世界に多大の影響をあたえてきた仏教の基本を学びます。サブカルチャーとして軽視されがちなアニメやコミックスなどに秘められた、日本人の「宗教性」も探求の対象です。

- 〔第1回〕 宗教はなぜ、人を殺すのか
- 〔第2回〕 日本仏教と戦争
- 〔第3回〕 一神教・多神教・アニミズムの世界構造
- 〔第4回〕 「救い」とは何か
- 〔第5回〕 死後世界と靈魂の図像学
- 〔第6回〕 アニメが秘める宗教性
- 〔第7回〕 ブッダの実像
- 〔第8回〕 般若心経と「空」
- 〔第9回〕 地獄と極楽
- 〔第10回〕 空海と密教美術
- 〔第11回〕 マンダラが明かす私たちの内面
- 〔第12回〕 「宗教」とは何か

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

毎回の講義で課すミニレポートの内容による。

科目 教育学特殊

2単位

担当 講師 岸本智典

12回の授業を通じてアメリカ教育思想史を概観し、その特徴を理解することを目指します。とりわけ、19世紀の後半から20世紀の初頭にかけて展開され、現代でも再評価の動きが続く古典的プラグマティズムが持つ哲学的・教育学的意義をとともに考えたいと思います。講義を中心に、講読、輪読やグループでの討議など、受講者の属性やクラスの形態に合わせて授業方式は柔軟に対応する予定です。

- 〔第1回〕 アメリカ教育思想史への導入——アメリカ教育思想を学ぶ意味、方法としての「思想史」
- 〔第2回〕 近現代英米教育思想の前提①——イギリス経験論の伝統とその継承
- 〔第3回〕 近現代英米教育思想の前提②——スコットランド啓蒙・功利主義・連合心理学
- 〔第4回〕 18-19世紀アメリカにおける思弁的思想の伝統①——J. エドワーズ・神学論争・カレッジ教育
- 〔第5回〕 18-19世紀アメリカ合衆国における思弁的

思想の伝統②——トランセンデンタリズムと教育

- 〔第6回〕 南北戦争が残したもの——文化・社会の変容と思想の新たな意味
- 〔第7回〕 英米観念論の展開とアメリカ思想の苗床としての「大学」
- 〔第8回〕 古典的プラグマティズムと教育①——C. S. パースの進化的宇宙論
- 〔第9回〕 古典的プラグマティズムと教育②——W. ジェイムズにおける「生の理想」
- 〔第10回〕 古典的プラグマティズムと教育③——J. デューイにおける「経験の再構成」
- 〔第11回〕 世紀転換期アメリカ合衆国における教育界の実際と思想布置
- 〔第12回〕 総括・試験——アメリカにとって「教育」はどのような意味を持ったのか？

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・眞壁宏幹編『教育思想史』（通信テキスト、2016年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

「教育思想史」を履修していることが望ましい。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 図書館・情報学

2単位

担当 講師 長谷川豊祐

図書館情報学について学ぶとともに、大学生・社会人としての基本的情報リテラシーを学びます。情報を正しく理解・評価・活用する基本的能力について、講義と演習によりスキルを高めます。レポートや論文の執筆に必要な文献の調査・入手、論文のテーマ設定などの実践的な知識が身に付きます。

- 〔第1回〕 オリエンテーション：論文執筆や課題解決ツールとしての「図書館・情報学」
- 〔第2回〕 メディアを組織化して利用者に提供する仕組みとしての「図書館」（1）
- 〔第3回〕 メディアを組織化して利用者に提供する仕組みとしての「図書館」（2）
- 〔第4回〕 情報を蓄積し伝達する図書、雑誌、インターネットなどの「情報メディア」（1）
- 〔第5回〕 情報を蓄積し伝達する図書、雑誌、インターネットなどの「情報メディア」（2）
- 〔第6回〕 情報メディアの収集、提供、保管を行うための「資料組織」（1）
- 〔第7回〕 情報メディアの収集、提供、保管を行うための「資料組織」（2）
- 〔第8回〕 データベースやインターネットで情報を探索・入手するための「情報検索」（1）
- 〔第9回〕 データベースやインターネットで情報を探索・入手するための「情報検索」（2）
- 〔第10回〕 社会人に必要なコミュニケーション技術としての「情報発信・学術情報流通」（1）
- 〔第11回〕 社会人に必要なコミュニケーション技術としての「情報発信・学術情報流通」（2）
- 〔第12回〕 総括、解説

〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義の理解を助けるために、出席確認を兼ねた簡単な理解確認シートの提出を求める。学術論文の検索・

要約の演習として、講義時間外での2回程度の課題提出を求める。参考資料を講義中に提示する。

◆成績評価方法

出席、課題提出、試験（最終回）により総合的に評価する。

第2類に属する科目

科目 日本史特殊

2単位

担当 文学部准教授 前田康孝

本科目の目的は、近代日本経済の発展を規定した社会的経済的諸条件の歴史の変遷を理解することにあります。そのために本科目は、近代経済成長の開始期となった明治期に焦点を絞ります。そして、近年の研究潮流も踏まえつつ、第1に生産規模と市場の量的拡大のみならず質の変化にまで視野を拡大し、第2に各種データと史料を多用します。以上の内容からなる本科目を受講することで、近代日本における社会動向の推移を豊富な歴史的知識とデータ・史料に裏付けられた多面的な視座に基づいて観察できるようになることを目指します。

- 〔第1回〕 幕末開港と居留地貿易
- 〔第2回〕 幕末維新期の産業構造
- 〔第3回〕 戦前期日本の貿易構造
- 〔第4回〕 明治政府の成立と初期経済・財政政策
- 〔第5回〕 大久保政権の政策転換
- 〔第6回〕 大隈財政と松方財政
- 〔第7回〕 企業勃興と商品流通
- 〔第8回〕 産業発展と輸出拡大・輸入代替
- 〔第9回〕 日清戦後財政と金本位制確立
- 〔第10回〕 「帝国国家」の成立と日露戦後財政
- 〔第11回〕 日清日露戦後経営期の産業発展
- 〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

・指定しません。毎回プリントを配付します。

◆参考文献

- ・浜野潔・井奥成彦ほか『日本経済史 1600-2015』（慶應義塾大学出版会、2017年）
- ・沢井実・谷本雅之『日本経済史 近世から現代まで』（有斐閣、2016年）
- ・小風秀雅『大学の日本史 教養から考える歴史へ4 近代』（山川出版社、2016年）
- ・坂野潤治『日本近代史』（筑摩書房、2012年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

全ての講義においてプロジェクターを用います。必要な方は眼鏡・コンタクトレンズなどをご持参ください。

◆成績評価方法

最終日に実施する試験の結果によって評価します。

科目 西洋史特殊

2単位

担当 講師 綾辺昌朋

アメリカ合衆国は自由・平等・個人主義の国として世界に知れ渡っています。しかし、合衆国には、そのような理想とはかけ離れた歴史があります。この授業では、アメリカ合衆国の負の側面であるネイティヴィズムとヴィジランティズムを特集します。民主主義の国アメリカがいかに移民を排除し、リンチを正当化してきたのかを探ります。

- 〔第1回〕 アメリカ合衆国のネイティヴィズムについて、及び1850年代のノー・ナッシング運動
- 〔第2回〕 新移民の流入と科学的人種主義の台頭
- 〔第3回〕 第一次世界大戦の衝撃
- 〔第4回〕 1920年代のネイティヴィズム
- 〔第5回〕 1924年移民規制法の成立
- 〔第6回〕 アメリカ合衆国のヴィジランティズムについて
- 〔第7回〕 多数派（コミュニティ）の専制が生み出す暴力
- 〔第8回〕 法への不信が生み出す暴力
- 〔第9回〕 人民主権、地元主権が生み出す暴力
- 〔第10回〕 人種と暴力
- 〔第11回〕 北部と南部
- 〔第12回〕 総括・試験

◆テキスト

・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・和田光弘『大学で学ぶアメリカ史』（ミネルヴァ書房、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

アメリカ合衆国の歴史に関心のある方はぜひ受講してみてください。教科書にはあまり載っていないことが学べると思います。カジュアルな授業ですので、リラックスして参加してください。

◆成績評価方法

最終日（12回目の授業）に教室で行う筆記試験によって評価します。

第3類に属する科目

科目 国文学古典研究

2単位

担当 文学部教授 石川 透

日本文学の内、室町物語（御伽草子）について、具体的に一つの作品を変体仮名で読み進めながら、文学の特徴を理解する。室町物語の文章は、いわゆる変体仮名で記されており、一見難しく感じる。しかし、変体仮名は夜間スクーリングのように集中して勉強すれば、読めるようになる。今回は、『道成寺縁起』を取り上げる予定。

〔授業予定〕

- 1 序論 室町物語について 絵巻と絵本を見る
- 2 変体仮名の勉強の仕方
- 3 本文を読む 1
- 4 本文を読む 2
- 5 本文を読む 3
- 6 本文を読む 4
- 7 本文を読む 5
- 8 本文を読む 6
- 9 本文を読む 7
- 10 本文を読む 8
- 11 本文を読む 9
- 12 総括 まとめる

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・授業時に指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

短期間で集中して勉強すれば、明治以前に使われた変体仮名はほぼ読めるようになるので、予習復習を欠かさずに行ってほしい。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 中国文学

2単位

担当 講師 植松公彦

唐李瀚撰の『蒙求』は中国古代の著名人の伝記・逸話を集めた、当時の児童向けの教科書で、平安時代にはすでに日本にも伝わり、漢文初学者向けの教科書として広く長く用いられて、日本人の中国古代に対する知識・教養の源泉の一つになりました。

本講義では皆さんと一緒に『蒙求』の何篇かを読んで、漢文の歴史・文法・語彙などを学びながら、『蒙求』の内容を味わい、その背景にある、中国の伝統的な物事の見方について考えて、皆さんが今後も漢文を読んでいくための素地を養います。

- 〔第1回〕 日本における漢文の受容と展開について
 〔第2回〕 『蒙求』と李瀚について
 〔第3回〕 「燕昭築台」を読む
 〔第4回〕 「鄭莊置駅」を読む
 〔第5回〕 「瓊瑤二妙」を読む
 〔第6回〕 「岳湛連璧」を読む

- 〔第7回〕 「郤詵一枝」を読む
 〔第8回〕 「戴憑重席」を読む
 〔第9回〕 「鄒陽長裾」を読む
 〔第10回〕 「王符縫掖」を読む
 〔第11回〕 「薦蒙求表」を読む
 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布します。

◆参考文献

- ・加藤徹『漢文の素養——誰が日本文化をつくったのか？』（光文社、2006年）
- ・金文京『漢文と東アジア——訓読の文化圏』（岩波書店、2010年）
- ・齋藤希史『漢文脈と近代日本』（KADOKAWA、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

返り点・送りがな・再読文字の使い方といった中学・高校で学ぶ程度の漢文訓読の基礎は、皆さんが理解していることを前提に講義を進めます。予習は必ずしもありませんが、漢和辞典も引いて、復習は必ずしてください。

◆成績評価方法

授業への参加度・最終日の試験によります。

科目 シェイクスピア研究

2単位

担当 文学部教授 井出 新

シェイクスピアについて知りたい。シェイクスピアの時代について学びたい。でもどこから手を付ければ良いかわからない。この講義はそんな受講者を想定している。講義で扱うのはシェイクスピアの代表作『ハムレット』のみ。但し、『ハムレット』を読んで面白さを味わう講義ではない。もちろん『ハムレット』は原文で読むが、この講義では、劇場・役者・社会・政治・宗教・性・音楽など、様々な視点から作品を分析し、テキストに刻み込まれた16・17世紀イギリスの文化的痕跡を検証することに主眼が置かれる。そしてさらに理解を深めるために、取り上げるテーマと関連したイギリス・ルネサンス期の（シェイクスピア以外の）演劇作品も参照し、比較検討していく。それによって受講者はシェイクスピアや『ハムレット』についてだけでなく、この時代の社会や文化について広く理解することができるだろう。この講義の目標は、換言すれば、『ハムレット』という小さな窓を通して、受講者の知性にシェイクスピア学という風を通し、そこからイギリス・ルネサンスという風景を眺めることにある。それによって受講者が文学テキストの分析的手法を会得し、テキストに対する洞察力や批判的思考力を養うことができると考えている。

- 〔第1回〕 プロローグ 何もない空間——「観る」演劇と「聞く」演劇
 〔第2回〕 亡霊か悪魔か、復讐か死か、それが問題だ——シェイクスピアのジレンマ（講読）
 〔第3回〕 亡霊か悪魔か、復讐か死か、それが問題だ

- シェイクスピアのジレンマ（分析）
- 〔第4回〕 増殖する『ハムレット』——原稿・台本・印刷本・海賊本・翻案本
- 〔第5回〕 旅芸人がやって来た——少年劇団の興隆
- 〔第6回〕 台詞以外はしゃべるな！——シェイクスピアの演劇論（講読）
- 〔第7回〕 台詞以外はしゃべるな！——シェイクスピアの演劇論（分析）
- 〔第8回〕 操り人形オフィーリア——シェイクスピアと「家族」の絆
- 〔第9回〕 祈れない悪党（たち）——宗教改革と悲劇の誕生
- 〔第10回〕 オフィーリアの唄——バラッドと社会
- 〔第11回〕 隠れた英雄フォーティンブラス——シェ

イクスピア演劇の政治性

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・青山誠子（編）『ハムレット（シリーズもっと知りたい名作の世界）』（ミネルヴァ書房、2006年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

シェイクスピアを含むルネサンス演劇・文学に関心がある学生、初期近代イギリスの歴史に興味のある学生を歓迎する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

第1・2・3類共通科目

科目	総合講座「ノーベル賞で辿る現代の経済理論」	2単位
担当	コーディネーター 経済学部教授 穂刈 享 経済学部教授 赤林英夫／経済学部教授 大垣昌夫 経済学部教授 坂井豊貴／経済学部教授 中村慎助 経済学部教授 藤原グレーヴァ 香子／経済学部准教授 津曲正俊	

講義要綱は76頁を参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

【第1類に属する科目】

科目 哲学特殊 2単位

担当 講師 鈴木 平

経済学部専門教育科目「社会思想史」(60頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 講師 齋藤香里

経済学部専門教育科目「社会政策」(61頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 講師 永井攻治

経済学部専門教育科目「社会福祉論」(61頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 講師 山本直子

法学部専門教育科目「社会学特殊」(70頁)を参照してください。

科目 マス・コミュニケーション論 2単位

担当 講師 山口 仁

法学部専門教育科目「マス・コミュニケーション論」(71頁)を参照してください。

科目 哲学特殊 2単位

担当 講師 原田健二郎

法学部専門教育科目「政治思想論」(71頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 講師 李 錫敏

法学部専門教育科目「国際政治論」(71頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 法学部教授 小川原正道／講師 門松秀樹

法学部専門教育科目「日本政治論」(73頁)を参照してください。

【第2類に属する科目】

科目 西洋史特殊 2単位

担当 講師 篠原洋治

経済学部専門教育科目「専門外国書講読(英書)」(61頁)を参照してください。

科目 人文地理学 2単位

担当 講師 花島誠人

経済学部専門教育科目「経済地理」(63頁)を参照してください。

科目 日本史特殊 2単位

担当 講師 神野 潔

法学部専門教育科目「法制史」(70頁)を参照してください。

科目 日本史特殊 2単位

担当 講師 小田義幸

法学部専門教育科目「日本政治史」(73頁)を参照してください。

科目 西洋史特殊 2単位

担当 法学部教授 出岡直也

法学部専門教育科目「地域研究(ラテンアメリカ)」(74頁)を参照してください。

3 経済学部専門教育科目

科目 計量経済学

2単位

担当 講師 金 志映

計量経済学は複雑な経済事象を、数量的に解明することを目的としている。具体的には、経済に関する何らかの仮説があり、これを検証するために実験計画をたて、実際に実験を行い、仮説の真偽を検討するという作業を行う。例えばガソリン価格の高騰は、ガソリンと補完関係にある自動車の需要にも影響を与えると考えられる。この影響を数量的に把握するために、ガソリン価格や自動車の販売台数といった資料を収集して解析することが行われている。このような一連の作業は、自然科学の諸分野と類似しているものの、経済学には統御実験ができないという特有の問題があり、仮説を検証できるような実験計画の立案を非常に困難にしている。本講義ではこのようなことを念頭におきながら、古典的回帰モデルを中心に一般に行われている実証分析の手法を、なるべく平易に解説していきたい。講義は概ね以下の内容を取り上げる予定であるが、履修者の状況によって適宜修正する。

- 〔第1回〕 計量経済学とは（Ⅰ）：実験計画と資料の収集
- 〔第2回〕 計量経済学とは（Ⅱ）：計量経済学の歴史的な流れ、消費関数論争
- 〔第3回〕 最小二乗法（Ⅰ）：線形関係の推定
- 〔第4回〕 最小二乗法（Ⅱ）：最小二乗推定値、決定係数
- 〔第5回〕 単純回帰分析（Ⅰ）：単純回帰モデル
- 〔第6回〕 単純回帰分析（Ⅱ）：推定量 α と β の期待値と分散、最良線型不偏性と一致性
- 〔第7回〕 単純回帰分析（Ⅲ）： t 検定
- 〔第8回〕 多重回帰分析（Ⅰ）：多重回帰モデル、多重共線性
- 〔第9回〕 多重回帰分析（Ⅱ）：自由度修正済み決定係数、変数の過不足
- 〔第10回〕 モデルの関数型と特殊な変数：対数変換、ダミー変数
- 〔第11回〕 標準的仮定が満たされない場合：系列相関、不均一分散等
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・山本拓『計量経済学』（新世社、1995年）
- ・秋山裕『Rによる計量経済学』（オーム社、2009年）（市販書採用科目「計量経済学」テキスト）
- ・小尾恵一郎『計量経済学入門—実証分析の基礎』（日本評論社、1972年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

1. 微分積分、確率の初歩的知識を身に付けていること。
2. 「統計学」（テキスト・スクーリング、いずれも可）を履修済みであることを前提とする。
3. 経済事象に関する疑問や仮説を具体的にもって講

義に臨むと、内容を理解しやすいと思われる。

4. 毎回の講義と最終試験時にはルートの計算ができる電卓を持参すること。ただし試験時は通信機能付きの電卓や関数電卓の使用は不可。

◆成績評価方法

出席状況および最終日の試験の結果による評価。

科目 社会思想史

2単位

担当 講師 鈴木 平

社会思想史は、今とは異なる社会の私たちが共有していない価値観を含む思想の歴史です。過去に思想を既成概念や先入観を通さずに学ぶことで、私たちはそれまで信じてきたことや世界観を客観的に見ることができるようになります。ときには再考や反省を余儀なくされるかもしれませんが、そのような経験を積み重ねるうちに、私たちの社会が直面している様々な問題について、公平な立場から熟考するための素地を、自らの内に育むことができるようになるでしょう。

このことは、思想の歴史から私たちが学ぶことができるもっとも大切な意義のひとつではないでしょうか。

この講義では、近代の西洋思想のあゆみをたどりながら、近代と向き合い、社会を牽引した思想家たちの思考のエッセンスについて考察したいと思います。

- 〔第1回〕 はじめに—社会思想とは何か
- 〔第2回〕 マキアヴェリの社会思想
- 〔第3回〕 宗教改革の社会思想
- 〔第4回〕 古典的「社会契約」思想の展開
- 〔第5回〕 ルソーの文明批判と人民主権論
- 〔第6回〕 スミスにおける経済学の成立
- 〔第7回〕 「哲学的急進主義」の社会思想—保守から改革へ
- 〔第8回〕 J・S・ミルにおける文明社会論の再建
- 〔第9回〕 西洋文明の危機とヴェーバー
- 〔第10回〕 現代「リベラリズム」の諸潮流
- 〔第11回〕 社会思想の歴史から何を学ぶか
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・坂本達哉『社会思想の歴史—マキアヴェリからロールズまで』（名古屋大学出版会、2014年）ISBN978-4-8158-0770-2

◆参考文献

- ・水田洋『新稿 社会思想小史』（ミネルヴァ書房、2006年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講生の皆様には、テキストの内容に即しながら、レジュメの作成や簡単なご報告を行っていただく予定です。

◆成績評価方法

授業への出席回数と参加状況（レジュメ作成やご報告など）、最終日の試験（持込可）の結果をあわせて総合的に評価します。

科目 専門外国書講読（英書）

2単位

担当 講師 篠原洋治

本講座では、近年の歴史・思想史の分野で、方法的に意欲的な論文を読みます。授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献を紹介しながら内容の補足説明をしていきます。

今年度は、ジョナサン・イスラエル（Johathan I. Israel）の名著『急進的啓蒙—哲学と近代の生成 1650–1750年 Philosophy and the Making of Modernity 1650–1750, Oxford, 2001』からの抜粋を読みます。

啓蒙思想がフランス革命をもたらしたという教科書的言説が疑問視されて久しいなか、英国の歴史家ジョナサン・イスラエルは、あえて、フランス革命前夜の啓蒙急進派による「精神の革命」があったからこそ、旧体制が崩壊したという「大きな物語」を提示しました。論争を生んだこの名著の一端を覗いてみたいと思います。

- 〔第1回〕 イントロ The “Triumph” of Newton and Locke
- 〔第2回〕 Europe Embraces English Ideas 1
- 〔第3回〕 Europe Embraces English Ideas 2
- 〔第4回〕 Locke, Newtonianisme, and Enlightenment 1
- 〔第5回〕 Locke, Newtonianisme, and Enlightenment 2
- 〔第6回〕 Materialism 1
- 〔第7回〕 Materialism 2
- 〔第8回〕 Diderot 1
- 〔第9回〕 Diderot 2
- 〔第10回〕 Rousseau, Radicalism, Revolution 1
- 〔第11回〕 Rousseau, Radicalism, Revolution 2
- 〔第12回〕 まとめと試験

◆テキスト

- ・プリントを配布する。

◆参考文献

- ・ジョナサン・イスラエル、森村敏己訳『精神の革命——急進的啓蒙と近代民主主義の知的起源』（みすず書房、2017年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

- 必ず予習をして来てください。

◆成績評価方法

出席ならびに担当箇所の翻訳など平常点を重視し、最終日の試験も考慮に入れます。

科目 社会政策

2単位

担当 講師 齋藤香里

現代の社会政策は労働問題と社会保障によって構成されるが、本講義では日本の社会保障のあり方について「格差」に着目し、検討する。経済学の視点から、特に、医療保障、子どもの貧困、高齢者の介護問題を取り上げる。

- 〔第1回〕 イントロダクション—社会政策とは何か
- 〔第2回〕 社会政策の理論と歴史的展開

- 〔第3回〕 日本の社会保障制度の変遷と概要
- 〔第4回〕 医療①日本の医療保障の概要と課題
- 〔第5回〕 医療②医療における格差
- 〔第6回〕 子どもの貧困①相対的貧困と絶対的貧困
- 〔第7回〕 子どもの貧困②幼児教育の経済学
- 〔第8回〕 子どもの貧困③子どもの貧困への対策
- 〔第9回〕 高齢者の介護問題①日本の介護保険制度
- 〔第10回〕 高齢者の介護問題②日本の介護保険制度の課題
- 〔第11回〕 高齢者の介護問題③ドイツの介護施策
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・駒村康平・山田篤裕・四方理人・田中聡一郎・丸山桂『社会政策—福祉と労働の経済学』（有斐閣アルマ、2015年）
- ・阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』（岩波書店、2014年）
- ・ジェームス・J・ヘックマン『幼児教育の経済学』（東洋経済新報社、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

- 特になし。

◆成績評価方法

- 最終日の試験による。

科目 社会福祉論

2単位

担当 講師 永井攻治

社会保障・福祉制度は成立と改革を相互に繰り返して現在の姿となった。その流れは、経済成長及び財政と深く関わっている。例えば、高度経済成長・財政拡充期に骨子が成立し、その後の安定成長・緊縮財政期に制度改革が多くなされている。この法則から考察すると、現在の低成長期は後者（改革期）と言える。それでは、これからの社会保障制度は、改革の名の下にどのような方向転換が迫られているのか。それは、これまでとは異なる状況、特に超高齢化社会においても破綻することのない福祉施策を講じる制度改革である。

従来型の制度改革は、負担と給付の議論が先行していた。しかし、財政面のみから考えると、人口の高齢化、家族機能の変化、財政赤字等への対応策が問題である。現在の財政状況では、これからの福祉ニーズに十分な対応を施す事は困難である。また、戦後60年以上が経過し、日本の社会保障や福祉を取り巻く理念も「弱者救済から全国民への安心の保障」へと変化している。

そこで本講義では、社会保障・福祉制度の歴史的展開と少子高齢化社会の社会保障・福祉制度の役割・各社会保険（医療・年金・福祉）と労働保険（労災・雇用保険）の制度を中心に学ぶ。そして、持続可能性のある社会保障・福祉制度の必要性と、超高齢化社会に対応した福祉施策のあり方とは何かを共に考える。

- 〔第1回〕 イントロダクション及び成熟化社会と社会保障
- 〔第2回〕 少子・高齢化社会の現状と動向
- 〔第3回〕 高齢化と日本経済
- 〔第4回〕 社会保障制度の機能

2018年度夜間スクーリング

- 〔第5回〕 日本の年金制度の歴史の変遷①
- 〔第6回〕 日本の年金制度の歴史の変遷②
- 〔第7回〕 年金制度の概要①
- 〔第8回〕 年金制度の概要②
- 〔第9回〕 健康保険制度の概要
- 〔第10回〕 労働者災害補償保険制度の概要
- 〔第11回〕 働くルールと社会保障
- 〔第12回〕 総括「現在の社会保障制度の問題点について」

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する予定である。

◆参考文献

- ・駒村康平『福祉の総合政策〔新訂5版〕』（創成社、2011年）（市販書採用科目「社会政策（E・J）」テキスト）
- ・その他、授業中に適宜指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

日本の社会保障・福祉制度について関心を持つ塾生を歓迎する。担当教員の指導に非協力的な塾生の受講は歓迎しない。なお、講義終了後に毎回テーマを与え、自分なりの意見を提出してもらう予定である。

◆成績評価方法

「テスト」、「出席と課題提出」、「授業態度（増減点）」で評価する予定である（受講者数により臨機応変に判断するので、詳細は授業開始時に説明する）。

科目 経済政策

2単位

担当 講師 野口尚洋

新聞やテレビのニュースで、政府による経済政策は様々な形で報道されている。年金などの社会保障政策や雇用の創出などのマクロ経済政策などは多くの人にとっての関心事項であろう。特に、将来に対する不確実さや国際化の波による伝統的な日本の経済構造の崩壊に直面している今、政府による経済政策の重要性は日増しに高まっている。

本講義では、経済学の中で経済政策を理解することにより経済理論に裏打ちされた目でこれら政策について自分なりに理解出来るようになることを目標とする。

具体的な講義内容は以下の通り。

- 〔第1回〕 ミクロ経済学の復習
- 〔第2回〕 市場への政府介入
- 〔第3回〕 公益事業と競争政策
- 〔第4回〕 外部性と公共財
- 〔第5回〕 ミクロ経済政策の復習
- 〔第6回〕 マクロ経済学の復習
- 〔第7回〕 安定化政策の基礎と財政金融政策
- 〔第8回〕 インフレ・デフレと失業
- 〔第9回〕 安定化政策の現代的課題
- 〔第10回〕 税制の効率性と公平性
- 〔第11回〕 現実のトピックス
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール経済政策入門』（日本経済新聞出版社、2006年）ISBN978-4-532-13310-8

◆受講上の要望または受講上の前提条件

ミクロ経済学、マクロ経済学の復習も講義の中で行う予定しているが、時間の関係上、それほど詳しく説明できないので、経済原論（ミクロ経済学やマクロ経済学など）の講義を履修しているか、または講義までにある程度の知識を身につけていることを前提とする。

◆成績評価方法

最後の試験によって評価するが、数回は当日扱った内容に対するレポートを講義内に作成し提出していただき、それも評価の対象とする。

科目 金融論

2単位

担当 講師 溝口哲郎

金融取引は、我々の日々の経済活動において必要不可欠な存在である。日本がグローバル化の進行する世界の中で豊かさを享受しているのは、金融の力が大きい。本講義では、現代における金融の仕組みを理解し、金融機関の存在意義、資産の価格決定メカニズム、金融政策などのトピックを取り扱う予定である。

- 〔第1回〕 金融の役割と資金循環
- 〔第2回〕 企業の資金調達と投資
- 〔第3回〕 金融商品のリスク制御と価格計算
- 〔第4回〕 金融機関の仲介機能と証券市場
- 〔第5回〕 金融行政と金融政策
- 〔第6回〕 財政と財政投融资
- 〔第7回〕 貿易・資本移動と外国為替
- 〔第8回〕 金融のミクロ理論（家計の金融行動）
- 〔第9回〕 金融のミクロ理論（企業・銀行の金融行動）
- 〔第10回〕 金融のマクロ理論（ワルラス法則とIS-LM分析）
- 〔第11回〕 金融のマクロ理論（総需要－総供給モデル、オープン・マクロモデル）
- 〔第12回〕 試験

◆テキスト

- ・吉野直行・山上秀文『金融論』（通信テキスト、2017年）

◆参考文献

- ・川西諭・山崎福寿『金融のエッセンス』（有斐閣、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

金融論は経済学の応用分野のため、経済学を履修済であることが望ましい。特にマクロ経済学およびミクロ経済学の知識があると、理解が容易になるだろう。講義では金融の現状や実際を含めて説明し、その理解に基づいて金融の理論を学習する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。ただし一定のスクーリング出席を前提とする。

科目 国際経済学

2単位

担当 講師 久野 新

国と国とが貿易を行うのは何故なのか。ある国の主要貿易品目はどのように決定されるのか。貿易自由化や自由貿易参加の是非をめぐる国内でも意見が衝突す

るのは何故なのか？ 外国人労働者の受け入れが一国の経済に与える影響はどのようなものなのか？

本講義では、広義の国際経済学のなかでも国際貿易論と呼ばれる領域の理論の基礎を学び、こうした諸問題について受講者が自ら考察できるようになるための訓練を行う。

・学習の到達目標

本講義で登場する基礎的な用語や理論について、第三者に対して説明できるようになること。

講義内容は以下を予定している。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 部分均衡分析の方法論（復習）
- 〔第3回〕 貿易政策の基礎
- 〔第4回〕 貿易政策の応用
- 〔第5回〕 比較優位と分業の利益（1）
- 〔第6回〕 比較優位と分業の利益（2）
- 〔第7回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（1）
- 〔第8回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（2）
- 〔第9回〕 地域貿易協定（1）
- 〔第10回〕 地域貿易協定（2）
- 〔第11回〕 国際要素移動（資本や労働の国際移動）
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ〔第2版〕』（有斐閣、2013年）
ISBN978-4-641-17719-2

◆受講上の要望または受講上の前提条件

経済原論を履修済みであることが望ましい。

授業内のディスカッションに積極的に参加すること。

◆成績評価方法

最終日の試験（持ち込み不可）のみで評価する。

科目 世界経済論

2単位

担当 講師 宮崎礼二

21世紀の世界は、2001年の同時テロ、2008年のサブプライムローン問題に端を発する国際金融危機とその後の世界同時不況、そしてヨーロッパ財政危機を契機とするユーロ解体の懸念など、第二次世界大戦後に経験することのなかった「危機の連鎖的状況」で始まった。さらに、BRICSに象徴される新興国の台頭は、19世紀・20世紀の帝国主義列強諸国・先進工業国中心の世界経済地図を大きく書き換えつつある。中国の台頭は覇権国アメリカとの対抗関係を強めてもいる。また、イギリスのEU離脱やアメリカでのトランプ政権成立に象徴されるように、先進国の多くで「グローバル化恐怖症」(globophobia) がそれまでのグローバル化の興隆を凌駕しようとしている。不確定かつ不確実性の高まる時代を予兆させる。

本講義は今日の世界経済を理解するために、第二次世界大戦後から今日に至る世界経済の展開と変遷を、国際的な経済関係からグローバルな経済への移行とその構造変化に焦点を当てながら、政治経済学的に考察をおこなう。さらに、この変遷過程に、現実経済と経済思想との関係性を見出し、政策面からも世界経済を捉える。講義では、個々の具体的な政治経済事象や政策展開を時系列的に取り上げ、それらの

政治経済的な意味とそれらが現実の世界経済にどのような影響をもたらし、またどのような意義をもったのかを論じたい。したがって、本講義は理論を中心とする「学」ではなく、事実を踏まえて解釈する「論」に重きをおく。つまり、定量的ではなく定性的分析が主たるアプローチである。また、今日の世界における各国経済のあれやこれやを解説することが、本講義の目的ではないことに留意すること。

講義計画

- 〔第1回〕 講義ガイダンス & イントロダクション
- 〔第2回〕 戦後世界経済秩序の形成
- 〔第3回〕 戦後構想と現実との乖離
- 〔第4回〕 Pax Americanaの基盤確立
- 〔第5回〕 国民国家を超越する多国籍資本の台頭
- 〔第6回〕 国民国家の「呪縛」からの解放とグローバル化の胎動
- 〔第7回〕 戦後世界経済秩序への挑戦—オイル・ショックとその帰結—
- 〔第8回〕 レーガノミクスの世界経済への影響
- 〔第9回〕 ポスト冷戦とグローバリズム盛隆
- 〔第10回〕 戦後世界経済の変容とバブル連鎖
- 〔第11回〕 世界経済秩序を巡る米中対抗の構図
- 〔第12回〕 グローバリゼーション、グローバリズム、民主主義
- 〔その他〕 内容の節目ごとに、リアルタイムで生じている政治経済事象を講義テーマから読み解くための《歴史と現代との対話》を挿入することもある。

◆テキスト

- ・新岡智・板本雅彦・増田正人編『国際経済政策論』有斐閣、2009年。

◆参考文献

参考文献については、講義内で適宜紹介する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

1. 講義は、前回までの内容の積み重ねで全体像を構成するため、欠席することのないようにしてほしい。
2. 日々の政治経済ニュースに関心を持っていることが望ましい。

◆成績評価方法

期末レポートによる。

科目 経済地理

2単位

担当 講師 花島誠人

この講義では、経済地理学の概念枠組を理解し、基礎的な理論と分析手法を知ることによって、現実の社会・経済的課題に取り組むための経済地理的視点を学ぶことを目的とする。

地理学は、地表に生起する事象（地理的事象）に関する学問である。経済地理学は、その中でも特に人間の経済行動に焦点を当てた分野であり、経済学はもちろんのこと、社会学、経営学、歴史学、行動科学、情報学など多様な学問とクロスオーバーする広い領域を対象としている。特に近年は、地理情報システム(GIS)をはじめとする高度な情報ツールを誰もが容易に利用できるようになり、社会・経済的課題に対して空間的

2018年度夜間スクーリング

視点からアプローチが試みられるようになってきている中で、それらの取組における理論的バックグラウンドとして、経済地理学が果たす役割は重要さを増していると言えよう。この講義では、以下に示すように、理論だけでなく実際のデータや分析事例、さらには先端的な研究についても紹介していきたい。

- 〔第1回〕 イントロダクション：ディシプリンとフレームワーク
- 〔第2回〕 経済地理学の理論と方法
- 〔第3回〕 日本の地理空間情報
- 〔第4回〕 日本の地域統計情報
- 〔第5回〕 地理情報分析の基礎①
- 〔第6回〕 地理情報分析の基礎②
- 〔第7回〕 地理情報システム（GIS）
- 〔第8回〕 地理情報科学と経済地理学
- 〔第9回〕 自然災害と地理情報科学①
- 〔第10回〕 自然災害と地理情報科学②
- 〔第11回〕 歴史地理学への招待
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・テキストは指定しない。適宜プリントを配布する。

◆参考文献

- ・杉浦章介／松原彰子／武山政直／高木勇夫『人文地理学』（通信テキスト、2005年）
- ・小林茂／宮澤仁『グローバル時代の人文地理学、放送大学教材』（NHK出版、2012年）
- ・杉浦芳夫（編）『地理空間分析』（朝倉書店、2003年）
- ・菅野峰明／高坂宏行／安仁屋政武『地理的情報の分析手法』（古今書院、2000年）
- ・ピーター・ディッケン／ピーター・E・ロイド『立地と空間（上・下）』（古今書院、1997年）
- ・HGIS研究協議会編『歴史GISの地平』（勉誠出版、2012年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

講義の中でインターネット上の情報リソースに言及することが多いので、必須ではないが塾内ネットワークアカウントを取得しているか、インターネットにアクセスする手段を有していることが望ましい。

一般的なインターネットやWEBサイト関連の用語やコンピュータに関する基本的な知識があることが望ましい。

◆成績評価方法

出席状況、授業への参加状況、最終日の試験により評価する。

科目 経営学

2単位

担当 商学部教授 菊澤研宗

この講義では、経営学と経済学との違いから説明し、経営学の特徴を述べるとともに、現代経営学の中心的分野である経営戦略論を中心に講義する。特に、経営戦略論の流れとともに、最新のダイナミック・ケイパビリティ論、そして現在、必要とされている多面的な経営戦略論について説明する予定である。

- 〔第1回〕 所有と支配の分離論：原理
- 〔第2回〕 所有と支配の分離論：効果
- 〔第3回〕 戦略と多面的世界観

- 〔第4回〕 物理的世界の戦略論：ポーターの戦略論前史
- 〔第5回〕 物理的世界の戦略論：ポーターの競争戦略論
- 〔第6回〕 資源ベース論
- 〔第7回〕 ダイナミック・ケイパビリティ論
- 〔第8回〕 心理的世界の戦略論1：プロスペクト理論
- 〔第9回〕 心理的世界の戦略論2：心理会計論
- 〔第10回〕 知性的世界の戦略：取引コスト理論
- 〔第11回〕 多面的戦略論
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・菊澤研宗著『戦略学—立体的戦略の原理』（ダイヤモンド社、2008年）ISBN978-4-478-00607-8

◆参考文献

講義の中で紹介する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 産業関係論

2単位

担当 商学部教授 八代充史

この講義では、産業関係論の様々な側面の中で特に人的資源管理について講義を行う。人的資源管理とは、市場経済で最大利潤獲得を目的にした企業が、どうしたら従業員を合理的に活用し、また彼らのやる気を高めることができるかを研究する学問である。ここでは、人的資源管理を①理論、②実態、③国際比較、の3つの側面から講ずることにしたい。

- 〔第1回〕 人的資源管理の諸概念（1）
- 〔第2回〕 人的資源管理の諸概念（2）
- 〔第3回〕 労働市場と人的資源管理
- 〔第4回〕 人的資源管理の組織—人事部門・人事制度
- 〔第5回〕 人的資源管理の諸領域—（1）募集・採用
- 〔第6回〕 人的資源管理の諸領域—（2）配置・異動
- 〔第7回〕 人的資源管理の諸領域—（3）昇進・昇格
- 〔第8回〕 人的資源管理の諸領域—（4）人事考課
- 〔第9回〕 人的資源管理の諸領域—（5）賃金
- 〔第10回〕 人的資源管理の国際比較（1）
- 〔第11回〕 人的資源管理の国際比較（2）
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・八代充史『人的資源管理論（第2版）』（中央経済社、2014年）

◆参考文献

- ・八代充史・南雲智映『ライブ講義 はじめての人事管理（第2版）』（泉文堂、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

なるべく講義開始時間に着席しているようにして下さい。

◆成績評価方法

スクーリング期間の最終日に実施する試験によって、評価を行います。

科目	総合講座「ノーベル賞で迎える現代の経済理論」	2単位
担当	コーディネーター 経済学部教授 穂刈 享 経済学部教授 赤林英夫／経済学部教授 大垣昌夫 経済学部教授 坂井豊貴／経済学部教授 中村慎助 経済学部教授 藤原グレーヴァ 香子／経済学部准教授 津曲正俊	

講義要綱は76頁を参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

科目	哲学（専門）	2単位
担当	講師 北村直彰／講師 石田隆太	

講義要綱は文学部専門教育科目「哲学（専門）」（52頁）を参照してください。

科目	社会心理学（専門）	2単位
担当	講師 村山 陽	

講義要綱は文学部専門教育科目「社会心理学（専門）」（54頁）を参照してください。

科目	図書館・情報学	2単位
担当	講師 長谷川豊祐	

講義要綱は文学部専門教育科目「図書館・情報学」（55頁）を参照してください。

科目	日本史特殊	2単位
担当	文学部准教授 前田廉孝	

講義要綱は文学部専門教育科目「日本史特殊」（56頁）を参照してください。

科目	西洋史特殊	2単位
担当	講師 綾辺昌朋	

講義要綱は文学部専門教育科目「西洋史特殊」（56頁）を参照してください。

科目	憲法	2単位
担当	講師 岡田順太	

講義要綱は法学部専門教育科目「憲法」（67頁）を参照してください。

科目	民法	2単位
担当	法学部准教授 前田美千代／講師 阿部 史	

講義要綱は法学部専門教育科目「民法」（67頁）を参照してください。

科目	刑法	2単位
担当	講師 大山 徹	

講義要綱は法学部専門教育科目「刑法」（67頁）を参照してください。

科目	行政法	2単位
担当	講師 仲田孝仁	

講義要綱は法学部専門教育科目「行政法」（69頁）を参照してください。

科目	法制史	2単位
担当	講師 神野 潔	

講義要綱は法学部専門教育科目「法制史」（70頁）を参照してください。

科目	社会学特殊	2単位
担当	講師 山本直子	

講義要綱は法学部専門教育科目「社会学特殊」（70頁）を参照してください。

科目	マス・コミュニケーション論	2単位
担当	講師 山口 仁	

講義要綱は法学部専門教育科目「マス・コミュニケーション論」（71頁）を参照してください。

科目 政治思想論	2 単位
-----------------	------

担当 講師 原田健二郎

講義要綱は法学部専門教育科目「政治思想論」(71頁)を参照してください。

科目 国際政治論	2 単位
-----------------	------

担当 講師 李 錫敏

講義要綱は法学部専門教育科目「国際政治論」(71頁)を参照してください。

科目 政治理論	2 単位
----------------	------

担当 講師 慶 済姫

講義要綱は法学部専門教育科目「政治理論」(72頁)を参照してください。

科目 政治過程論	2 単位
-----------------	------

担当 講師 池田豊彦

講義要綱は法学部専門教育科目「政治過程論」(72頁)を参照してください。

科目 日本政治史	2 単位
-----------------	------

担当 講師 小田義幸

講義要綱は法学部専門教育科目「日本政治史」(73頁)を参照してください。

科目 日本政治論	2 単位
-----------------	------

担当 法学部教授 小川原正道／講師 門松秀樹

講義要綱は法学部専門教育科目「日本政治論」(73頁)を参照してください。

科目 地域研究（ラテンアメリカ）	2 単位
-------------------------	------

担当 法学部教授 出岡直也

講義要綱は法学部専門教育科目「地域研究（ラテンアメリカ）」(74頁)を参照してください。

科目 憲法

2単位

担当 講師 岡田順太

日本国憲法の諸論点を明確にし、典型的な解釈論から立法論（改憲論）まで、最先端の憲法論を展開したい。具体的には、次の論点を予定している。

- 〔第1回〕 イントロダクション・憲法の基本原則
- 〔第2回〕 人権総論（享有主体性・私人間効力）
- 〔第3回〕 消極的権利（1）
- 〔第4回〕 消極的権利（2）
- 〔第5回〕 積極的権利（受益権・社会権）
- 〔第6回〕 能動的権利／複合的権利
- 〔第7回〕 天皇
- 〔第8回〕 国会／内閣
- 〔第9回〕 裁判所
- 〔第10回〕 財政／地方自治
- 〔第11回〕 安全保障
- 〔第12回〕 総括

◆ テキスト

・駒村圭吾『プレステップ憲法 第2版』（弘文堂、2018年）

◆ 参考文献

必要に応じて授業内で指示する。

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

特別な予習は必要ないが、毎回出席して、克明にノートを取り、思考を廻らせてほしい。また、『六法』（判例要旨付のものが望ましい）を毎回携帯してほしい。具体例を挙げ平明に講義するつもりである。

◆ 成績評価方法

最終日の試験による。8割以上の出席を試験受験資格とし、採点は寛大に行う。

科目 民法

2単位

担当 法学部准教授 前田美千代／講師 阿部 史

本講義は、民法財産法に関する基礎的知識の習得と、法的思考力の涵養を目的とします。そのために、民法総則・物権法・債権法のなかから、重要なトピックを抽出して解説します。具体的には、民法の基礎、契約の意義・成立・効力・履行・不履行、物権の意義・変動、担保物権の意義・効力、不法行為などを取り上げる予定です。

民法財産法は契約、所有、不法行為の3つを柱としていますが、本講義ではその全体をカバーすることになります。講義の際には、基礎的な事柄のみならず、応用的ないし発展的な論点にも立ち入って解説します。

- 〔第1回〕 民法ガイダンス・民法の構造
- 〔第2回〕 民法総論
- 〔第3回〕 契約総論
- 〔第4回〕 法律行為①
- 〔第5回〕 法律行為②
- 〔第6回〕 契約各論
- 〔第7回〕 物権法総論

〔第8回〕 物権各論①

〔第9回〕 物権各論②

〔第10回〕 担保物権①

〔第11回〕 担保物権②

〔第12回〕 総括

◆ テキスト

・野村豊弘『民事法入門』（有斐閣アルマ>Basic、第7版、2017年）

その他、プリントを適宜配布する。

◆ 参考文献

・平野裕之『民法総則』（日本評論社、2017年）

・平野裕之『債権総論』（日本評論社、2017年）

・中田裕康『契約法』（有斐閣、2017年）

・淡路剛久、鎌田薫、原田純孝、生熊長幸『民法Ⅱ－物権』（有斐閣Sシリーズ、第4版、2017年）

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

本講義を受講する際には、六法（小型のものでよい）を毎回かならず持参してきてください。

本講義受講上の前提条件はとくにありませんが、参考文献につき簡単に目を通しておく講義の理解が進むと思います。

◆ 成績評価方法

試験の結果により評価します。

科目 刑法

2単位

担当 講師 大山 徹

刑法各論の講義を行う。刑法典第2編「罪」の中の一連の犯罪につき順次レクチャーしていくが、各々の犯罪がどのような法益を保護するために存在しているのかということをもまずは確認する。明治40年に制定された刑法典は、国家的法益に対する罪・社会的法益に対する罪・個人的法益に対する罪の順番でそれぞれの犯罪を配列しているが、本講義においては、個人的法益に対する罪・社会的法益に対する罪・国家的法益に対する罪の順番で講義を行う。それぞれの犯罪の成立要件は何か、犯罪類型相互の関係はどうなっているか、正確に理解できるように、丁寧な講義を毎回するよう心掛ける。予備知識は一切必要ないので、安心して受講されたい。

〔第1回〕 殺人罪、人の始期と人の終期 出生とは何かについては、議論があり、一部露出説・全部露出説・分娩開始説等がそれぞれ主張されている。各説を丁寧にレクチャーする。胎児の保護と母体保護法との関連、臓器移植と人の終期についても考察する。

〔第2回〕 暴行罪と傷害罪の関係につき第一次的にレクチャーする。また、刑法202条は前段で同意殺人罪を後段で自殺関与罪を規程しているが、これに関しても、懇切丁寧にレクチャーする。いわゆる偽装心中に刑法199条を適用すべきか、刑法202条を適用すべきかが問題になっているが、この点についても言及していく。

- 〔第3回〕 単純遺棄罪における遺棄概念と保護責任者遺棄罪における遺棄概念とは異なり、後者については移置のみならず置き去りも含むと解されている。この論点を中心に論ずる。遺棄罪が抽象的危険犯か具体的危険犯かについては争いがあるが、この論点に関しても話題提供を行う。危険犯の話をする際には、放火罪の話をし行う。
- 〔第4回〕 胎児性水俣病事件を素材に、胎児性致死傷が業務上過失致死罪で捕捉されるか否かにつき論ずる。故意による胎児性致死傷に限って処罰するという異説も主張されており、これについても紹介をする。また、墮胎概念につき、墮胎を胎児殺と解する有力説も存在するが、この見解に関しても紹介をする。
- 〔第5回〕 名誉毀損罪と侮辱罪の異同につき解説を行う。公然性の要件の意義、伝播性の理論、事実の適示につき考察する。また、仮定的名誉の話や真実性の証明（名誉毀損と表現の自由の関連）についても、具体的な事件を素材にして分析を試みることにしたい。
- 〔第6回〕 財産罪の体系につき講義を行う。財産罪の分類にあたっては、領得罪と毀棄罪とに分ける見解、財物罪と利得罪とに分ける見解、個別財産に対する罪と全体財産に対する罪とに分ける見解等がある。これらの見解につき講ずる。業務妨害罪と信用毀損罪が財産罪の抽象的危険犯だとする見解もあるが、この論点に関しても言及をする。
- 〔第7回〕 財産罪の保護法益は本権か事実上の占有か。判例は占有説を採るが、学説上は本権説も有力である。窃盗犯人から真の所有者が盗まれた財物を奪還する事例等で両説の差が生ずる。この論点につき噛み砕いて解説を試みる。間接領得罪である盗品関与罪についてもコメントをする。
- 〔第8回〕 不法領得の意思につき学説は必要説を採るが、学説上は不要説が有力である。もっとも、必要説を採っても、所有権者として振る舞う意思と経済的用法に従い利用・処分する意思に二分する見解も存在する。使用窃盗や毀棄罪と領得罪について講ずる。
- 〔第9回〕 詐欺罪の成立要件と財産的損害の意義につき解説を加える。国家的法益の侵害に詐欺罪は適用されるか等の典型的な論点についても言及する。自己名義のクレジットカードの不正使用の問題に関してもコメントするが、詐欺罪の書かれざる構成要件要素である財産的損害の意義についても議論を紹介する。また、文書偽造罪と詐欺罪の関係についても話をする。
- 〔第10回〕 詐欺罪における交付行為（処分行為）につき考察する。キセル乗車における下車駅での事態や無意識の処分行為につき検討する。交付意思が必要かどうかに関しては学説上盛んな議論があるが、担当者は交付意思必要説の立場に立脚して、議

論を紹介していく。

- 〔第11回〕 強盗関係罪につき検討を試みる。236条の強盗罪につき分析を試みるほか、事後強盗罪の構造、240条が強盗殺人罪、強盗致死罪、強盗傷人罪、強盗致傷罪をそれぞれ規定していることにも言及する。なお、240条とハイジャック防止法上の航空機強取等致死罪は本罪と密接な関連性を有するが、この論点についても言及する。

- 〔第12回〕 横領罪における不法領得の意思の発現、占有の意義、横領後の横領等の論点につき解説する。財物罪と利益罪のどちらにも分類できない背任罪についても言及する。横領と背任の区別についてもコメントする予定である。贈収賄罪に関しても少し触れる。

- 〔その他〕 小テスト

◆ テキスト

- ・井田良・佐藤拓磨ほか著『よくわかる刑法』第3版、ミネルヴァ書房、2018年、2500円、ISBN978-4-623-06721-3
- ・高橋則夫『刑法各論』第2版、成文堂、2014年、4860円、ISBN978-4792351243
- ・西田典之『刑法各論』第6版、弘文堂、2012年、4320円、ISBN978-4335304544

◆ 参考文献

- ・山口厚・佐伯仁志『刑法判例百選2 各論』第7版、有斐閣、2014年、2592円、ISBN9784641115214
- ・西田典之『判例刑法各論』第6版、有斐閣、2013年、3780円、ISBN9784641042926

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

刑法総論ないし法学入門の講義を既に受講済みである方が望ましい。

◆ 成績評価方法

小テストと最終日の試験で専ら評価する。

科目 刑事政策学

2単位

担当 講師 吳 柏蒼

刑事政策は、犯罪者に対してどのように刑罰や処分を以て制裁を課すかということは勿論、刑罰や処分の執行のあり方や、犯罪予防の側面についても重視し、加えて犯罪被害者に関する視点も欠かせない。本講義は、刑事政策の目的や原理、刑事制裁論と犯罪者処遇論における重要なトピックを取り上げ、犯罪予防や犯罪被害者支援の諸論点を加味し、さらに、各論として近年社会的関心の大きい論点を取り上げたいと思う。講義は、以下のような予定で進みたいと思うが、実際の状況に応じて微調整することもありうる。

- 〔第1回〕 刑事政策の目的と原理
 〔第2回〕 死刑・自由刑
 〔第3回〕 矯正処遇・仮釈放・保護観察
 〔第4回〕 執行猶予・刑の一部執行猶予
 〔第5回〕 財産刑
 〔第6回〕 ダイバージョン
 〔第7回〕 犯罪被害者支援
 〔第8回〕 犯罪被害者の法的地位

- 〔第9回〕 性犯罪
- 〔第10回〕 薬物犯罪
- 〔第11回〕 高齢者犯罪
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・守山正・安部哲夫編著『ビギナーズ刑事政策 第3版』（成文堂、2017年）（市販書採用科目「刑事政策学」テキスト）ISBN978-4-7923-5199-1

◆参考文献

- ・井田良・太田達也『いま死刑制度を考える』（慶應義塾大学出版会、2014年）
- ・太田達也『刑の一部執行猶予—犯罪者の改善更生と再犯防止』（慶應義塾大学出版会、2014年）
- ・朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年）
- ・太田達也著『仮釈放の理論—矯正・保護の連携と再犯防止』（慶應義塾大学出版会、2017年）
- ・法務総合研究所編『平成29年版犯罪白書』（法務省、2017年）
- ・国家公安委員会・警察庁編『平成30年犯罪被害者白書』（2018年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講上の前提要件は特にないが、刑事政策の学習にあたり、法解釈論に止まらず、現状や制度の運用状況を踏まえたうえで、政策や制度のあり方を検討する必要があるため、連動した政策や制度を立体的・総合的に考えることも重要である。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 民事訴訟法

2単位

担当 講師 金 美紗

私人間では、実体法上の権利の存否をめぐり、さまざまな紛争が生じうる。たとえば、「目的物を引き渡したにもかかわらず、買主が売買代金を支払ってくれない」というケースでは、売買代金債権の存否について、売主と買主の間で争いが生じている。このような場合、私人は、紛争解決の一手段として、民事訴訟を利用することができる。民事訴訟は、裁判所の「判決」によって、権利の存否を確定させる公的な紛争解決手続であり、具体的には、訴えの提起により開始され、裁判所が下した判決が確定することによって終了する。本講義では、以下の要領に従い、民事訴訟手続の基本構造について学習する。

- 〔第1回〕 民事紛争を解決するための諸制度、民事訴訟手続の流れ
- 〔第2回〕 訴えの類型、訴訟物
- 〔第3回〕 当事者に関連する幾つかの事項—当事者の確定、当事者能力、訴訟上の代理
- 〔第4回〕 訴訟要件、訴えの利益
- 〔第5回〕 処分権主義
- 〔第6回〕 民事訴訟の審理方式—口頭弁論の諸原則、民事訴訟における主張の展開
- 〔第7回〕 弁論主義
- 〔第8回〕 自由心証主義、証明責任
- 〔第9回〕 証拠調べ手続

- 〔第10回〕 判決の既判力①

- 〔第11回〕 判決の既判力②

- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・三木浩一、笠井正俊、垣内秀介、菱田雄郷『リーガルクエスト 民事訴訟法 第2版』（有斐閣、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

民事訴訟の対象となる私法上の権利および法律関係は、実体法である民法や商法などにおいて定められている。したがって、本講義の履修を希望する者には、民事訴訟法を学習する前提として、民法、特に財産法についてひと通りの基礎的知識があることが望まれる。また、講義には必ず最新の六法（コンパクト六法、ポケット六法、デイリー六法などの小型のものでよい）を持参すること。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 行政法

2単位

担当 講師 仲田孝仁

講義では、各種行政活動に共通する通則的な理論である「行政法総論」と、違法な行政活動に対する事後的な権利・利益の救済制度である「行政救済法」とを学ぶ。公務員として任用された場合は、実際に法律や条例を運用する。民間企業であっても行政の規制が及ばない業種・業界はないと言っても過言ではない（許認可事項は1万件（14818件、平成26年4月1日時点）を越える）。さらに、一市民としても、運転免許や各種営業許可の取得、申請・届出、家庭ごみの収集、生活保護費の受給、年金、税金の課税処分など行政とのかかわりは切っても切れない（東京メトロ（地の底）から「宇宙航空研究開発機構（JAXA、独立行政法人）」（宇宙）まで）。よって、現職の公務員であれ、会社員、一般市民いずれの立場であれ、「行政法」を学習する意味がある。本講義は、「行政法」の入門的な知識を受講者に習得・理解させることを目的とする。さらに、実社会に生起する諸問題を、「行政法」的思考法で模索、解決することをも意図する。向学心旺盛な学生諸君の受講を期待する。

- 〔第1回〕 イントロ—「行政法」を学ぶ前に。「行政法」とはいかなる法か。「行政法」を学習する意義について。「行政法」の歴史、公法・私法二元論について（農地改革、租税法律関係と民法177条。公営住宅の利用関係）。
- 〔第2回〕 行政法の諸原則—法律による行政の原理、侵害留保説、その他の諸原則について。
- 〔第3回〕 行政組織法概説—行政主体、行政機関概念について、国家行政組織法について。
- 〔第4回〕 行政行為概説—行政行為、行政裁量、行政行為の諸分類について。附款について。日光太郎杉事件、マククリーン事件、伊方原発訴訟（原子炉等規制法、原子力規制委員会）など。
- 〔第5回〕 行政行為の取消・無効、行政行為の撤回—ガントレット事件、菊田医師事件について。
- 〔第6回〕 行政手続法概説—申請に対する処分、不利

益処分（聴聞手続）、行政指導手続など。
個人タクシー事件、品川マンション事件、理由付記など。

〔第7回〕 行政の実効性確保の手段—行政代執行、即時強制、行政罰について。

〔第8回〕 行政救済法概説—損失補償について（名取川事件、奈良県ため池条例事件、土地収用法と損失補償など）。

〔第9回〕 行政不服申立て概説—行政不服審査法について。平成26年改正法について（審査請求、審理員、行政不服審査会）。

〔第10回〕 国家賠償法概説—1条責任と2条責任について（学校事故、パトカーによる追跡、高知落石事故、水害訴訟〈大東、多摩川水害訴訟〉など）。

〔第11回〕 行政事件訴訟概説（1）—行政訴訟の訴訟類型について。取消訴訟、処分性、原告適格（訴えの利益）について。

〔第12回〕 行政事件訴訟概説（2）—義務付け訴訟、差止め訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟〈住民訴訟〉について。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第5版〕』（弘文堂、2016年）ISBN978-4335356605
- ・中原茂樹『基本行政法〔第3版〕』（日本評論社、2018年）ISBN978-4535523333
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ 行政法総論〔第6版〕』（有斐閣、2017年）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅱ 行政救済法〔第6版〕』（有斐閣、2018年）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ 行政法総論〔第6版〕』（有斐閣、2015年）
- ・原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』（学陽書房、2012年）
- ・芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）
- ・宇賀克也他編『行政法判例百選Ⅰ〔第7版〕（別冊ジュリスト235）』（有斐閣、2017年）
- ・宇賀克也他編『行政法判例百選Ⅱ〔第7版〕（別冊ジュリスト236）』（有斐閣、2017年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

「行政法」は「法律学」の中では、応用科目に属する。そのため、「憲法」、「民法」、「刑法」といった基幹的な科目を履修中であることが望ましい。また、行政訴訟との関連では、「民事訴訟法」も履修中であることも望ましい。とはいえ、例年、少数ではあるが、経済学部履修者もいらっしゃるので、基礎的な法律学の内容もフォローする予定である。学習する範囲が広いので、毎回受講後の復習は必要不可欠である。また、担当者が事前に予習を課した内容については、必ず予習しておくこと。

◆成績評価方法

スクーリングにすべて出席したことを前提として期末試験により評価する。欠席は原則として認めない。病欠や仕事でも例外はない（但し、やむを得ない場合は例外を認める。速やかに教員に申告すること。）。期

末試験を重視する。場合によっては、小テストを実施するか、または小レポート課題などを課した場合はそれらについても評価対象として加点する。くれぐれも欠席しないこと。

科目 法制史

2単位

担当 講師 神野 潔

日本法の変遷を歴史的に把握することは、現行法を本質的に理解しまた相対化するために、極めて有効な手段のひとつである。現行法は近代の西洋法継受がその原点となっているが、継受の際に日本の前近代法的な要素が完全に排除されたわけではなく、またその一方で、制定された法には取りこまれなかった前近代的法意識が社会に存在し続けたことも指摘されている。

これらのことを踏まえて、本講義では、日本法の変遷を歴史的に把握する一つの方法として、前近代における法の変遷過程を通史的に把握することを目指す。ただし網羅的にそれを行うことは時間的に困難なので、本講義で行う「通史的把握」とは、いわば飛び石を並べるような試みである。詳しくは各回の講義内容を参照のこと。

〔第1回〕 古代法① 律令の構造と内容①

〔第2回〕 古代法② 律令の構造と内容②

〔第3回〕 古代法③ 平安時代の法と秩序

〔第4回〕 古代法④ 古代における地方支配

〔第5回〕 中世法① 鎌倉幕府法の構造と内容

〔第6回〕 中世法② 鎌倉幕府の訴訟制度

〔第7回〕 中世法③ 室町期の法、特に社会史的な視点から

〔第8回〕 中世法④ 分国法の構造と内容

〔第9回〕 近世法① 江戸幕府法の構造と統治機構

〔第10回〕 近世法② 公事方御定書と刑罰・犯罪

〔第11回〕 近世法③ 江戸幕府の訴訟制度

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・出口雄一・神野潔・十川陽一・山本英貴編著『概説 日本法制史』弘文堂、2018年

◆成績評価方法

講義最終日に行う筆記試験（100点）で評価する。

科目 社会学特殊

2単位

担当 講師 山本直子

グローバル化に伴い、国境を超えた人の移動は活発化し、人種、民族、言語、文化の多様化がますます進展している。本講義では、人の移動が社会や移民自身にもたらす影響について学ぶ。前半は、人の移動がもたらす変化について、どのような議論が歴史的に展開されてきたのかを学ぶことで、基本的理論や基礎概念を理解する。後半は現代社会の具体的な事例を取り上げ、多文化社会が直面するさまざまな事柄を多様な視点から考えることで理解を深めていきたい。

〔第1回〕 オリエンテーション、講義の紹介

〔第2回〕 エスニシティ、ネイション、ナショナルリズム

- 〔第3回〕 グローバル化と人口移動
- 〔第4回〕 人種概念と差別
- 〔第5回〕 社会統合と同化・編入
- 〔第6回〕 多文化主義
- 〔第7回〕 移民と政治
- 〔第8回〕 移民と教育
- 〔第9回〕 移民とジェンダー
- 〔第10回〕 日本社会と移民
- 〔第11回〕 多文化共生をめぐる問い
- 〔第12回〕 総括
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・樽本秀樹『よくわかる国際社会学 第2版』（ミネルヴァ書房、2016年）
- ・大澤真幸・塩原良和・橋本努・和田伸一郎『ナショナリズムとグローバリズム』（新曜社、2015年）

◆成績評価方法

授業内ディスカッションへの参加度、最終レポートを総合して評価する。

科目 マス・コミュニケーション論

2単位

担当 講師 山口 仁

マス・コミュニケーションに関する様々な概念や理論の理解を深めることを目的とする。前半はコミュニケーションや政治社会に関する基本的な考え方を、後半はマス・コミュニケーションに関する理論や研究アプローチに関する解説を行っていく。

- 〔第1回〕 コミュニケーションの基本概念①：社会関係と社会過程。
- 〔第2回〕 コミュニケーションの基本概念②：コミュニケーション研究の研究対象の拡大。
- 〔第3回〕 コミュニケーションの基本概念③：情報環境とメディア
- 〔第4回〕 コミュニケーションと社会構造
- 〔第5回〕 近代社会とマス・コミュニケーション
- 〔第6回〕 マス・コミュニケーションの効果・影響モデルの変遷①：弾丸効果モデル～限定効果モデル
- 〔第7回〕 マス・コミュニケーションの効果・影響モデルの変遷②：強力効果モデル
- 〔第8回〕 マス・コミュニケーションの効果・影響モデルの変遷③：強力影響・機能モデル
- 〔第9回〕 政治とコミュニケーション：多次元的権力観に基づくコミュニケーションのとらえ方
- 〔第10回〕 マス・コミュニケーション論とジャーナリズム論①：規範論としてのジャーナリズム論。
- 〔第11回〕 マス・コミュニケーション論とジャーナリズム論②：社会過程論としてのジャーナリズム論。
- 〔第12回〕 総括・解説

◆テキスト

- ・大石裕『コミュニケーション論』（通信テキスト、2016年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 政治思想論

2単位

担当 講師 原田健二郎

今日の政治における基本的かつ重要なトピックについて、主に西洋における代表的な思想を紹介しつつ、現代における議論状況を概観していきます。

各講義では、国家や自由、正義といった概念について、古代から現代までどのような考え方や論争状況があるのかを説明し、世界や日本の政治を深く理解するための手掛かりを得ていきたいと思います。講義全体を通じて、今日の政治を思想的かつ歴史的に理解する基盤を身につけることを目標とします。

〔第1回〕 イントロダクションー思想家とその時代

〔第2回〕 政治とは何か

〔第3回〕 国家と権力ー政治共同体の歴史

〔第4回〕 法と政体

〔第5回〕 デモクラシー

〔第6回〕 自由とリベラリズム

〔第7回〕 共同体と市民社会ーコミュニティアニズム

〔第8回〕 正義と平等

〔第9回〕 ネーションとエスニシティ

〔第10回〕 政治と宗教ーキリスト教を中心に

〔第11回〕 戦争と平和ー国際関係の思想

〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史一視座と論点』（岩波書店、2012年）
- ・小川仁志『はじめての政治哲学ー「正しさ」をめぐる23の問い』（講談社現代新書、2010年）
- ・川崎修・杉田敦編『現代政治理論』（新版、有斐閣、2012年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。

◆成績評価方法

出席状況および最終日の試験により評価します。

科目 国際政治論

2単位

担当 講師 李 錫敏

この授業では、ジョセフ・ナイとデイヴィッド・ウェルチの『国際紛争ー理論と歴史』を輪読して国際紛争と協調に関する基礎知識（歴史と理論）を習得した上で、事例研究として北朝鮮の核・ミサイル問題を取り上げて国際政治に関する理解を深めていきます。輪読は、毎回1～2名の報告者と1名の討論者を決め、まず報告者が作成したレジュメの口頭報告を行い、その後、討論者が章末の「学習上の論点」から選んだ論点（2点）に関して自分の意見をまとめて報告する方法で行います。事例研究は講義形式で行いますが、とり

2018年度夜間スクーリング

扱った問題に関してディスカッションする時間を設けます。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか？
- 〔第3回〕 第2章 紛争と協調を説明する一知の技法
- 〔第4回〕 第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで
- 〔第5回〕 第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦
- 〔第6回〕 第5章 冷戦
- 〔第7回〕 第6章 冷戦後の紛争と協調
- 〔第8回〕 第7章 現在の引火点
- 〔第9回〕 第8章 グローバリゼーションと相互依存
- 〔第10回〕 第9章 情報革命と脱国家的主体
- 〔第11回〕 核拡散問題に関する事例研究（1）
ーインド、パキスタン、リビア、イラク
- 〔第12回〕 核拡散問題に関する事例研究（2）
ーイラン、北朝鮮
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

・ジョセフ・S.ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A.ウェルチ（田中明彦、村田晃嗣訳）『国際紛争——理論と歴史』第10版（有斐閣、2017年）
ISBN978-4-641-14917-5

※ただし授業開始までに新版や改訂版が刊行された場合は、最新の版を使用します。

◆参考文献

テキストの巻末にある「さらに読み進む人のために」に掲載されている文献リストを参考にしてください。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

初回の授業で各回の報告者と討論者を決めますので、受講者は必ず参加してください。
毎回テキストを読んで授業に臨むようにしてください。

◆成績評価方法

出席10% 報告30%、議論への参加20%、期末レポート40%

科目 政治理論

2単位

担当 講師 慶 済姫

政治学は基本的に権力に関する学問ともいえます。本講義の目的は、権力を中心にする政治学を理解するために、基礎的な政治理論とその政治理論を活用した実例を概観することにあります。講義では、現在民主主義の権力の元である市民の意思決定をコントロールする政治意識に関する理論、有権者や政治家の政治的な決定を行う行動に関する理論およびその実例などを考察します。具体的には、以下のような計画に沿って進めます。なお、以下の講義計画は、事情によって若干の変更がある場合もあります。

- 〔第1回〕 オリエンテーション
 - ー 政治と権力
 - ー 政治学の主要分野
 - ー 本講義の構成
- 〔第2回〕 権力とイデオロギー 1

- ー イデオロギーの概念
- ー 日本、アメリカ、韓国におけるイデオロギーの区分
- ー 自由主義の展開 1

〔第3回〕 権力とイデオロギー 2

- ー 自由主義の展開 2
- ー 福祉国家論
- ー 新自由主義

〔第4回〕 権力とイデオロギー 3

- ー 民主主義論
- ー エリート主義
- ー 多元主義

〔第5回〕 政治過程論 1

- ー 政治過程の構成要因
- ー 組織的アクター（政党、利益団体）と政治理論
- ー 個人的アクター（政治家、有権者）と政治理論

〔第6回〕 政治過程論 2

- ー 政治家と政治（理論と実証）：テキスト

〔第7回〕 公共選択論 1

- ー 公共選択論の概念
- ー 合理的選択理論
- ー 選挙制度論：テキスト

〔第8回〕 公共選択論 2

- ー 選挙制度の実証分析：テキスト

〔第9回〕 公共選択論 3

- ー 投票行動の理論：テキスト

〔第10回〕 公共選択論 4

- ー 投票行動の実証分析：テキスト

〔第11回〕 地方自治 1

- ー 大都市制度の例：テキスト

〔第12回〕 地方自治 2

- ー 財政調整・道州制：テキスト
- ー 期末試験

◆テキスト

・小林良彰他『代議制民主主義の計量分析』（木鐸社、2016年）ISBN9784833224994

◆参考文献

講義の中で紹介する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 政治過程論

2単位

担当 講師 池田豊彦

明治以降の中央集権制度が疲弊して社会環境の変化に対応できなくなり、住民に身近な政治・行政制度への移行を求める観点から地方分権改革が進展してきた。地方自治・地方分権を切り口に、制度論から自治体改革をめぐる実態を含めて検証し、現代日本の政治過程を考察する。各回の講義概要は以下のとおり。

- 〔第1回〕 イントロダクションー社会病理現象と自治体の役割の拡大
- 〔第2回〕 戦後の地方自治制度と分権型社会
- 〔第3回〕 地方財政の構造と課題

- 〔第4回〕 揺れる地方行政体制
- 〔第5回〕 「極点社会」の到来―市町村は消滅するの
か
- 〔第6回〕 道州制と大都市制度改革
- 〔第7回〕 首長の権能と地方の時代
- 〔第8回〕 地方議会の権能とその改革
- 〔第9回〕 ローカル・マニフェストとガバナンス
- 〔第10回〕 「新しい公共」と市民の台頭
- 〔第11回〕 直接民主主義の可能性
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・指定なし。講義時にレジュメとプリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・西尾勝『未完の分権改革』（岩波書店、1999年）
- ・片山善博『日本を診る』（岩波書店、2010年）
- ・松本英昭『自治制度の証言』（ぎょうせい、2011年）
- ・江藤俊昭『自治体議会学』（ぎょうせい、2012年）
- ・神野直彦・金子勝編著『地方に税源を』（東洋経済新報社、1998年）など、地方自治
- ・地方分権に関するもの。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

最終日の試験を基本に、講義出席率を勘案する。

科目 日本政治史

2単位

担当 講師 小田義幸

「歴史は過去のことだから」と言って歴史を敬遠するかもしれませんが、過去を学ぶことは現在・将来を生きるためには欠かせません。歴史認識をめぐる問題や過去の歴史に起因する問題が国内外で大きく取り上げられ、かつ、今年は明治維新から150年の節目を迎えることになり、テレビや新聞などで日本の近現代史に接する機会も多くなっています。その一方で、学校などで近現代史を学ぶ機会が少ないため、先述の問題が現在の日本にとっていかに重要であるかが認識できず、自分自身の意見を持つことさえもままなりません。本講義では、近現代の日本政治外交史上、その後の日本の運命を左右する、もしくは、現在に至るまで影響が及ぶ重要な論点を取り上げ、今の価値観や見方にとらわれずに歴史を見つめ直し、歴史に関する知識を得るだけでなく、歴史の見方や歴史を学ぶ意味についても身につけてもらうつもりです。

- 〔第1回〕 オリエンテーション・日本近現代史の見方について考える
- 〔第2回〕 薩摩藩・長州藩は倒幕の英雄なのか？
- 〔第3回〕 近代日本が不平等条約を改正することができたのはなぜか？
- 〔第4回〕 戦前、憲法上存在しない元老が政治を制御できたのはなぜか？
- 〔第5回〕 日本が韓国を併合したのはなぜか？
- 〔第6回〕 明治憲法体制の下で政党内閣が誕生したのはなぜか？
- 〔第7回〕 政党政治が長く続かなかったのはなぜか？
- 〔第8回〕 軍人によるテロ・クーデターが相次いだの

はなぜか？

- 〔第9回〕 日中戦争が勃発したのはなぜか、また、それが長期化したのはなぜか？
- 〔第10回〕 日本がドイツと軍事同盟を結んだのはなぜか？
- 〔第11回〕 日本がアメリカとの戦争を回避できなかったのはなぜか？
- 〔第12回〕 総括・試験
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』（山川出版社、2013年）
- ・北岡伸一『日本政治史 外交と権力 増補版』（有斐閣、2017年）
- ・家近良樹『江戸幕府崩壊 孝明天皇と「一会桑」』（講談社、2014年）
- ・門松秀樹『明治維新と幕臣 新政府を底辺で支えた「ノンキャリア」たち』（中央公論新社、2014年）
- ・井上勝生『日本の歴史18 開国と幕末改革』（講談社、2009年）
- ・五百旗頭真編『日米関係史』（有斐閣、2008年）
- ・北岡伸一『日本の近代5 政党から軍部へ 1924～1941』（中央公論新社、2013年）
- ・戸部良一『シリーズ日本の近代 逆説の軍隊』（中央公論新社、2012年）
- ・佐々木隆『日本の歴史21 明治人の力量』（講談社、2010年）
- ・伊藤之雄『日本の歴史22 政党政治と天皇』（講談社、2010年）
- ・有馬学『日本の歴史23 帝国の昭和』（講談社、2010年）

※その他の文献については授業中に適宜紹介します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

初学者でも受講可能ですが、歴史から遠ざかっている受講者には、参考文献にある『もういちど読む山川日本近代史』を予め一読することをお勧めします。

◆成績評価方法

最終日の試験（60％）＋小レポートなど（40％）

※1000～2000字程度の小レポートを2回ほど提出してもらう予定です。

科目 日本政治論

2単位

担当 法学部教授 小川原正道／講師 門松秀樹

本講義では、日本における統治を考える上で欠くことのできない重要な要素である政治と行政、そして両者をつなぐ政官関係の観点から、日本政治を考察したいと考えています。

本講義は、日本の政治・行政・政官関係のそれぞれの論点について、歴史的な視点を踏まえ、その問題の原因や経緯・展開がいかなるものであるかということも含めて論ずることで、現在の日本政治が直面している問題に対する理解を深めていくことを目的としています。

- 〔第1回〕 日本の憲法

日本の憲法について、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点、共通点に着目して考察します。

〔第2回〕 国会

日本の議会について、各国と比較しながらその機能について考察します。

〔第3回〕 日本の政党

日本の政党について、戦後の政党制の変遷に着目して分析します。

〔第4回〕 利益集団

日本の利益集団について、その運動形態の特徴に着目しながら考察します。

〔第5回〕 日本の行政（1）

日本の行政について、「割拠主義」（セクショナリズム）に着目して、その特徴を分析・考察します。

〔第6回〕 日本の行政（2）

日本の官僚制度における特徴である「キャリア制度」の概要と、「天下り」との関係などの問題点について分析・考察します。

〔第7回〕 日本の行財政改革（1）

日本の行財政改革のうち、占領期における「戦後改革」について、その概要を説明した上で分析・考察を進めます。

〔第8回〕 日本の行財政改革（2）

成果を収めることができた日本の行財政改革として、鈴木善幸内閣・中曽根康弘内閣の下で展開された「第2次臨時行政調査会」（「中曽根行革」）について、その概要を説明します。

〔第9回〕 日本の行財政改革（3）

第8回に続き、「第2次臨時行政調査会」（「中曽根行革」）に関する分析・考察を進めます。

〔第10回〕 日本の政官関係（1）

日本の政官関係について、行政（官僚）の在り方とその変化について概要を説明します。

〔第11回〕 日本の政官関係（2）

「官僚主導」や「政治主導」など、政官関係をめぐる様々な議論を念頭に置いた上で、あるべき政官関係について分析・考察を進めます。

〔第12回〕 試験・総括

講義内容に関する試験を実施します。

◆テキスト

- ・プリントを適宜配布します。

◆参考文献

- ・大石真監修／縣公一郎・笠原英彦編著『なぜ日本型統治システムは疲弊したのか—憲法学・政治学・行政学からのアプローチ』（ミネルヴァ書房、2016年）
- ・笠原英彦・桑原英明編著『日本の政治と行政〔改訂版〕』（芦書房、2015年）
- ・大山耕輔監修／笠原英彦・桑原英明編著『公共政策の歴史と理論』（ミネルヴァ書房、2013年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特にありません。

◆成績評価方法

出席および最終日に実施する試験の結果によるものとします。

科目 地域研究（ラテンアメリカ）

2単位

担当 法学部教授 出岡直也

ラテンアメリカ諸国の政治史と近年の政治について考察する。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 ラテンアメリカ諸国の社会的特徴に関して（植民地期における形成を重視して）

〔第3回〕 20世紀初頭までのラテンアメリカ諸国の政治

〔第4回〕 ラテンアメリカにおける「古典的ポピュリズム」の政治

〔第5回〕 ラテンアメリカにおける軍事クーデタと軍政

〔第6回〕 ラテンアメリカにおける「民主化の時代」

〔第7回〕 ラテンアメリカにおける「民主主義の維持」への変化

〔第8回〕 ラテンアメリカにおける新自由主義改革の時代

〔第9回〕 ラテンアメリカにおける左傾化（脱・反新自由主義）の時代

〔第10回〕 ラテンアメリカにおけるポピュリズムの再考

〔第11回〕 ラテンアメリカにおける民主主義と資本主義の再検討

〔第12回〕 試験および総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講者が少人数であった場合、受講生による簡単な研究報告の時間を設けることも考えています。そうであっても、講義中に受講生の考えや知識をお尋ねする、ある程度双方向型の講義をしたいと思っています。研究意欲が強い学生の皆さんに受講していただきたいです。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 総合講座「ノーベル賞で辿る現代の経済理論」

2単位

コーディネーター 経済学部教授 穂刈 享

経済学部教授 赤林英夫／経済学部教授 大垣昌夫

担当 経済学部教授 坂井豊貴／経済学部教授 中村慎助

経済学部教授 藤原グレーヴァ 香子／経済学部准教授 津曲正俊

講義要綱は76頁を参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

科目 哲学（専門） 2単位

担当 講師 北村直彰／講師 石田隆太

講義要綱は文学部専門教育科目「哲学（専門）」（52頁）を参照してください。

科目 社会心理学（専門） 2単位

担当 講師 村山 陽

講義要綱は文学部専門教育科目「社会心理学（専門）」（54頁）を参照してください。

科目 図書館・情報学 2単位

担当 講師 長谷川豊祐

講義要綱は文学部専門教育科目「図書館・情報学」（55頁）を参照してください。

科目 計量経済学 2単位

担当 講師 金 志映

講義要綱は経済学部専門教育科目「計量経済学」（60頁）を参照してください。

科目 社会思想史 2単位

担当 講師 鈴木 平

講義要綱は経済学部専門教育科目「社会思想史」（60頁）を参照してください。

科目 社会政策 2単位

担当 講師 齋藤香里

講義要綱は経済学部専門教育科目「社会政策」（61頁）を参照してください。

科目 社会福祉論 2単位

担当 講師 永井攻治

講義要綱は経済学部専門教育科目「社会福祉論」（61頁）を参照してください。

科目 経済政策 2単位

担当 講師 野口尚洋

講義要綱は経済学部専門教育科目「経済政策」（62頁）を参照してください。

科目 金融論 2単位

担当 講師 溝口哲郎

講義要綱は経済学部専門教育科目「金融論」（62頁）を参照してください。

科目 国際経済学 2単位

担当 講師 久野 新

講義要綱は経済学部専門教育科目「国際経済学」（62頁）を参照してください。

科目 世界経済論 2単位

担当 講師 宮崎礼二

講義要綱は経済学部専門教育科目「世界経済論」（63頁）を参照してください。

科目 経済地理 2単位

担当 講師 花島誠人

講義要綱は経済学部専門教育科目「経済地理」（63頁）を参照してください。

科目 経営学 2単位

担当 商学部教授 菊澤研宗

講義要綱は経済学部専門教育科目「経営学」（64頁）を参照してください。

科目 産業関係論 2単位

担当 商学部教授 八代充史

講義要綱は経済学部専門教育科目「産業関係論」（64頁）を参照してください。

5 総合講座

ノーベル賞で迎える現代の経済理論（2単位）

コーディネーター 経済学部教授 穂刈 享

この授業では、1990 年以降のノーベル経済学賞の対象となった研究業績について講義します。講師陣は、そのノーベル賞経済学者から直接指導を受けたか、もしくは、その分野の専門家である経済学部のスタッフです。今回は内容がミクロ経済学関連のものに偏ってしまいましたが、機会があれば「マクロ編」も企画したいと思います。

〔第1回〕9月26日	イントロダクション	経済学部教授 穂刈 享
〔第2回〕10月3日	ベッカー：教育や家族の経済学の創始者	経済学部教授 赤林英夫
〔第3回〕10月10日	ハーヴィッツ：メカニズム・デザインの開拓者	経済学部教授 中村慎助
〔第4回〕10月17日	行動経済学（1）	経済学部教授 大垣昌夫
〔第5回〕10月24日	行動経済学（2）	経済学部教授 大垣昌夫
〔第6回〕10月31日	ゲーム理論（1）	経済学部教授 藤原グレーヴァ香子
〔第7回〕11月7日	ゲーム理論（2）	経済学部教授 藤原グレーヴァ香子
〔第8回〕11月14日	マーケット・デザイン（1）	経済学部教授 坂井豊貴
〔第9回〕11月28日	マーケット・デザイン（2）	経済学部教授 坂井豊貴
〔第10回〕12月5日	契約理論（1）	経済学部准教授 津曲正俊
〔第11回〕12月12日	契約理論（2）	経済学部准教授 津曲正俊
〔第12回〕12月19日	試験・まとめ	経済学部教授 穂刈 享

◆テキスト

特になし。

◆参考文献

- ・M. H. マッカーティ『ノーベル賞経済学者に学ぶ現代経済思想』日経BP社、2002 年
- ・T. カリアー『ノーベル経済学賞の40年—20世紀経済思想史入門』（上・下）筑摩書房、2012年
- ・根井雅弘（編著）『ノーベル経済学賞—天才たちから専門家たちへ』講談社、2016年

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

最終日の試験による。